

市町村名	八重瀬町						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1－①	八重瀬町国際交流人材育成事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア			
担当部課名	生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成24年～平成33年	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
					Ⅲ－3		
事業内容	国際的視野を広め、国際化時代に対応しうる青少年の育成を図るため、教育・文化・歴史・産業などの視察研修や青少年団体との交流及びホームステイ等の活動を行う青少年リーダーを海外に派遣する						
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,880	6,356	6,356	6,356	6,656
		(b) 予算現額	5,880	6,356	6,356	6,656	6,976
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	300	320
		(d) 繰越額	－	－	－	－	－
		A. 計 (b+d)	5,880	6,356	6,356	6,656	6,976
	B. 執行済額		5,381	6,313	6,352	6,481	6,880
	うち交付金充当額		3,888	5,050	5,081	5,184	5,504
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率（％）(B/A)		91.5%	99.3%	99.9%	97.4%	98.6%
予算の状況の説明		社会情勢の影響もあり、ハワイ行きの渡航費高騰で320千円の増額を行った。不要額は発生したが3%以下であり順調に予算執行することができた。不要額96千円現地の教材費用の減によるものである。					
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況				
				26年度	27年度	28年度	29年度
	海外短期派遣生徒数 12人	目 標	(12人)	(12人)	(12人)	(12人)	
		実 績	12人	12人	12人	12人	
	ホームステイの実施	目 標	(/)	(/)	(/)	(実施)	
		実 績				実施	
	帰国後の研修会及び報告会の実施	目 標	(/)	(/)	(/)	(実施)	
		実 績				実施	
	報告書の作成 70冊	目 標	(/)	(/)	(/)	(70冊)	
		実 績				70冊	
達成状況説明	団員選考試験において選考された青少年リーダー12人をハワイに派遣し、ホームステイや視察研修を行い国際的視野を広めた。また帰国後は、団員の親を招き事後研修を行った。団員には日本語と英語でレポートを提出させ報告書を70冊作成した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（30年度）
	短期派遣を実施した結果、英語を学ぶ関心・意欲が高まった生徒の割合：100%	目 標	()	(100%)	(100%)	()	()
		実 績	/	100%	100%		/
	短期派遣を実施した結果、視野が広がった生徒の割合：100%	目 標	()	(100%)	(100%)	()	()
		実 績	/	100%	100%		/
	【H30成果目標】 保護者へのアンケートで、帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じたか	目 標	()	()	()	()	80%以上
		実 績	/				
	進捗状況説明	帰国後、団員にアンケート調査を行い、「短期派遣を実施した結果、英語を学ぶ関心・意欲が高まった生徒の割合」、「短期派遣を実施した結果、視野が広がった生徒の割合」ともに100%であった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・現地におけるホームステイ先の確保や交流会の開催の充実を図ることで、事業効果がより発現できるよう取り組んでいく必要がある。 ・現在引率者であるALT等が現地におけるトラブル時の対応等にもあたっているが、安全管理や現地宿泊施設、その他機関とのやり取り等が発生した場合に、ALT等では対応できない事例等が出てくる可能性があるほか、現地での児童生徒の学習・交流のサポートという本来の業務に集中できない状況となる恐れがある。 ・選考試験や渡航説明会、事前研修等が学校行事や部活動の大会等とバッティングしないよう日程を確保する必要がある。	・沖縄県人会・東風平町人会・具志頭村人会と早めの調整を行い連携を取り合うことで、ホームステイ先の早期確保、現地のミドルスクールやクラブに所属している学生と交流会の実施に繋がれると考えられる。 ・引率者の負担を考えた場合、現地において諸トラブルに対応するための人員を別に確保することで、引率者の本来業務（現地における学習のサポート、交流会のサポート等）に集中して取り組んでいただくことができるようになる。 ・選抜試験や事前研修等については、行事等の年間計画の把握、弾力的な日程の変更対応が可能なようにすることが有用と考えられる。
今後の取り組み方針		
・現地県人会等との調整を早め実施することで、ホームステイ先や日程の早期確定に努めるとともに、現地のミドルスクールやクラブに所属する学生と交流をもてるよう協力要請を行うことで、研修日程の充実を図る。 ・現地人員もしくは沖縄から現地まで随行し、諸トラブルへ対応可能な添乗員もしくは現地コーディネーターの確保を実施していくことで、引率者が現地で生徒の安全管理、学習・交流のサポートに集中できる環境を構築する。 ・町内の学校行事の年間計画等の情報を町内の学校とは共有しつつ、研修予備日等を設けることで、事前研修の日程を弾力的に変更可能な形としていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>7,696</td><td>6,976</td><td>5,580</td><td>1,396</td><td>720</td></tr></table> 八重瀬町 6,976千円 補助金 6,976千円 八重瀬町青少年国際交流会 6,976千円 〔旅費・報償費・使用料 等〕 受益者負担（交付金対象外経費） 720千円 〔食料費・保険料・交流会費 等〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,696	6,976	5,580	1,396	720
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,696	6,976	5,580	1,396	720										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○町の補助金関係の例規・要綱に従い選定されており妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○取組内容に相応した規模となっており、適正であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○参加者に対して応分の負担を依頼していることから、妥当であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において関係書類等により確認、適正であった。											

市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1－②	八重瀬町少年少女人材育成交流事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア				
担当部課名	生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成26～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充			
事業内容	幅広い視野を育み、自然の中での体験活動や、集団生活を通して、規律・協調・友愛・奉仕等の精神を身につけ、心身ともに健やかな少年少女の健全育成を図るため、風土・文化の違う他県の子どもたちと交流を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法	□直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,564	5,564	5,564	5,564		
		(b) 予算現額	5,564	5,564	5,564	5,564		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0		
		(d) 繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	5,564	5,564	5,564	5,564		
	B. 執行済額		5,139	5,497	5,440	5,375		
	うち交付金充当額		4,111	4,397	4,352	4,300		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率（％）(B/A)		92.4%	98.8%	97.8%	96.6%		
	予算の状況の説明		予定していた事業内容を実施することができた。また不用額は4%以下であり、ほぼ計画通りに予算執行することができた。不用額189千円は両交流会において、旅費が当初予算に対し、多少安く抑えることができたため。					
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	(夏季) 児童生徒交流者数／12人	目 標	(12人)	()	()	()		
		実 績	12人					
	(冬季) 児童生徒交流者数／42人	目 標	(42人)	()	()	()		
		実 績	40人					
	達成状況説明	・事後報告会の開催 ・研修報告書の作成 ・児童生徒交流者52人（高知12人、山形40人）を達成することができた。 ・8月8日から8月10日まで、高知へ児童8名、生徒4名を派遣。現地の視察や、現地の各小学校の代表との交流を実施した。 ・12月24日から27日まで、町内各子ども会長より推薦された児童33人、町立中学校長、八重瀬町子ども会会長より推薦された生徒を7人を山形へ派遣し、交流を図った。事前研修で作成した壁新聞で八重瀬町の紹介を行い、現地での暮らしを紹介していただいたりした。 ・交流事業を通して、沖縄にはない他県の歴史や文化、風俗、習慣等を学ぶことで幅広い視野を育み、規律・協調・友愛・奉仕等の精神を身につけることができた。						
	成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（ 年度）	29年度	30年度	31年度
沖縄にはない他県の歴史や文化、風俗、習慣等を学ぶことで、地元への関心を高め視野が広がった生徒の割合：100%		目 標	()	(100%)	()	()	()	
		実 績		100%				
事後報告会の開催（2回）		目 標	()	(2回)	()	()	()	
		実 績		2回				
研修報告書作成（170冊）		目 標	()	(170冊)	()	()	()	
		実 績		170冊				
【H30成果目標】 保護者へのアンケートで、県外の人との交流により、児童生徒の視野が広まったと感じたか		目 標	()	()	()	()	80%以上	
		実 績						
進捗状況説明	・他県の子ども達と交流することで、八重瀬町代表として自覚が芽生え、コミュニケーションも積極的に行うなど成長がみられた。 ・事後報告会を計画どおり開催することができた。 ・沖縄にはない他県の歴史や文化、風俗、習慣等を学ぶことで幅広い視野を育むことができ、今後の学校生活、進路・就職選択においても交流事業の経験が生かされ、選択肢が増えることとなり成果が得られた。 ・団体行動を行うことにより、5分前行動や自己管理の大切さを身をもって体験することができ、規律・協調・友愛・奉仕等の精神を身につけることができた。 ・報告書の作成については、参加人数等を踏まえて必要冊数を精査した結果、高知交流70冊、山形交流100冊を作成した。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	高知交流事業については、相互の取り決めに基づき、隔年でお互いの県を訪問し交流会を実施する形式としている。隔年でお互いの県を訪問しており、平成29年度は八重瀬町の児童生徒が12人が高知県を訪問し、10人の児童と交流を深めた。平成30年度は高知県香南市側が本町を訪問・滞在することとなるが、夏休み期間であり、宿泊施設や視察先施設等の混雑が予想される。 また、八重瀬町からは児童生徒の派遣としていたが、香南市側の交流会参加は全員が児童となっていたことから、交流にあたって年齢差が生じる状況があった。 山形交流事業においては、冬休みを利用して事業実施を計画していることから、飛行機便等の確保に困難が生じる可能性がある。	高知交流事業については、年度の早い段階で香南市の交流担当者と調整を実施していくことで、早期の日程確定、宿泊施設や視察研修等の施設等の手配をするほか、本町の交流参加者の年齢層の見直しについて検討が必要である。 山形交流事業においては、早期に調整を開始することで、早めに日程を確保・決定することにより、飛行機や宿泊施設の確保を円滑に行っていくことが可能となると考えられる。
今後の取り組み方針		
高知交流事業については、事業実施に向けての取り組みを早急に行うことで、円滑な受け入れ体制の共に事前研修を引き続き実施し、事前に相互の理解を深めておくことで、円滑な交流の実施に努めていく。また、30年度からは、香南市と併せて本町の交流会参加者についても児童のみで実施していくこととする。 山形交流事業については、早い段階から山形県川とのやりとりを重ねていくことで日程の確保を行うとともに、参加者を早期に確定させることで、事前研修に引き続き力を注げるようにする。これにより現地において交流、集団生活体験、その他現地における体験活動などを通して幅広い視野の確保、資質の向上に努めていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>6,587</td><td>5,375</td><td>4,300</td><td>1,075</td><td>1,212</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,587	5,375	4,300	1,075	1,212
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,587	5,375	4,300	1,075	1,212										
八重瀬町 5,375 千円 補助金 5,375 千円 八重瀬町交流会 5,375 千円 【旅費・印刷製本費】 受益者負担 （交付対象外経費） 1,212 千円 【食糧費・消耗品費・交流会費等】														
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○町の補助金関係の例規・要綱に従い選定されており妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○取組内容に相応した規模となっており、適正であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○参加者に対して応分の負担を依頼していることから、妥当であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において関係書類等により確認、適正であった。											

市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1－③	渡嘉敷リーダー研修事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－ア			
					教育機会の拡充			
担当部課名	生涯学習文化課	事業実施 （予定）年度	平成26～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－3			
事業内容	風土、文化の異なる多文化での活動を通し、幅広い視野を育み、自然野中での体験活動や集団生活により、規律・強調・友愛・奉仕等の精神を養い、心身ともにすこやかな少年少女の健全育成を図るため、リーダー研修を実施する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（30年度）							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	891	911	891	974		
		(b) 予算現額	891	911	1,219	974		
		(c) 増減額（b-a）	0	0	328	0		
		(d) 繰越額	－	－	－	－		
		A. 計（b+d）	891	911	1,219	974		
	B. 執行済額		792	503	291	640		
	うち交付金充当額		459	402	232	443		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率（％）（B/A）		88.9%	55.2%	23.9%	65.7%		
予算の状況の説明		当初6月に予定していたが、大雨の影響でフェリーが欠航となったために10月に延期となった。10月に延期になったために再募集をかけたが、野球の大会などの行事とどうしてもかぶってしまい、参加人数の増加には繋がらなかった。当初は引率・ジュニアリーダー含めて184人分の参加を見込んでいたが、実績としてはは97人の参加者しかいなかったために43万程あまってしまった。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	渡嘉敷リーダー研修 1回実施	目 標	（ 1回 ）	（ 1回 ）	（ 1回 ）	（ 1回 ）		
		実 績	1回	1回	1回	1回		
達成状況説明	6月17日、18日に予定していたが、大雨警報が発令され、フェリーの運航が停止したためにできなくなってしまった。しかし、予約を入れられるのであれば延期にしていいか理事会にかけたところ、承認を得たので10月14日、15日に日程を変更した。その中で日程の変更を行ったので、参加者を再募集するという形をとった。 研修では、6月に行われるはずであった海洋研修、平和学習、ウォークラリーを行ったがフェリーの運航時間が異なっていたため、スケジュールを微調整して行った。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （30年度）
	渡嘉敷リーダー研修の実施（参加児童124人）	目 標	（ ）	（ 124人 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		58人				
	【H30成果目標】 保護者へのアンケートで、本島外での研修により、児童の視野が広まったと感じたか	目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	80%	
		実 績						
	進捗状況説明	渡嘉敷リーダー研修を実施するという活動目標だけでは内容がわかりづらく、この研修の実績がわからないというところから、平成29年度より活動報告書を作成することとなった。また、活動報告中に子どもたちを対象にした感想カードを綴り、それとは別にアンケートを実施して実績を目に見えるようにした。参加人数に関しては、昨今の子どもたちの町の事業への参加率などを鑑みて、できることが多様化してきた中で昔の基準を持ち出すのは厳しいと判断。平成30年に向けて人数の調整を行い、事業の内容をより良い形で子どもたちに伝わるように工夫していくこととした。						

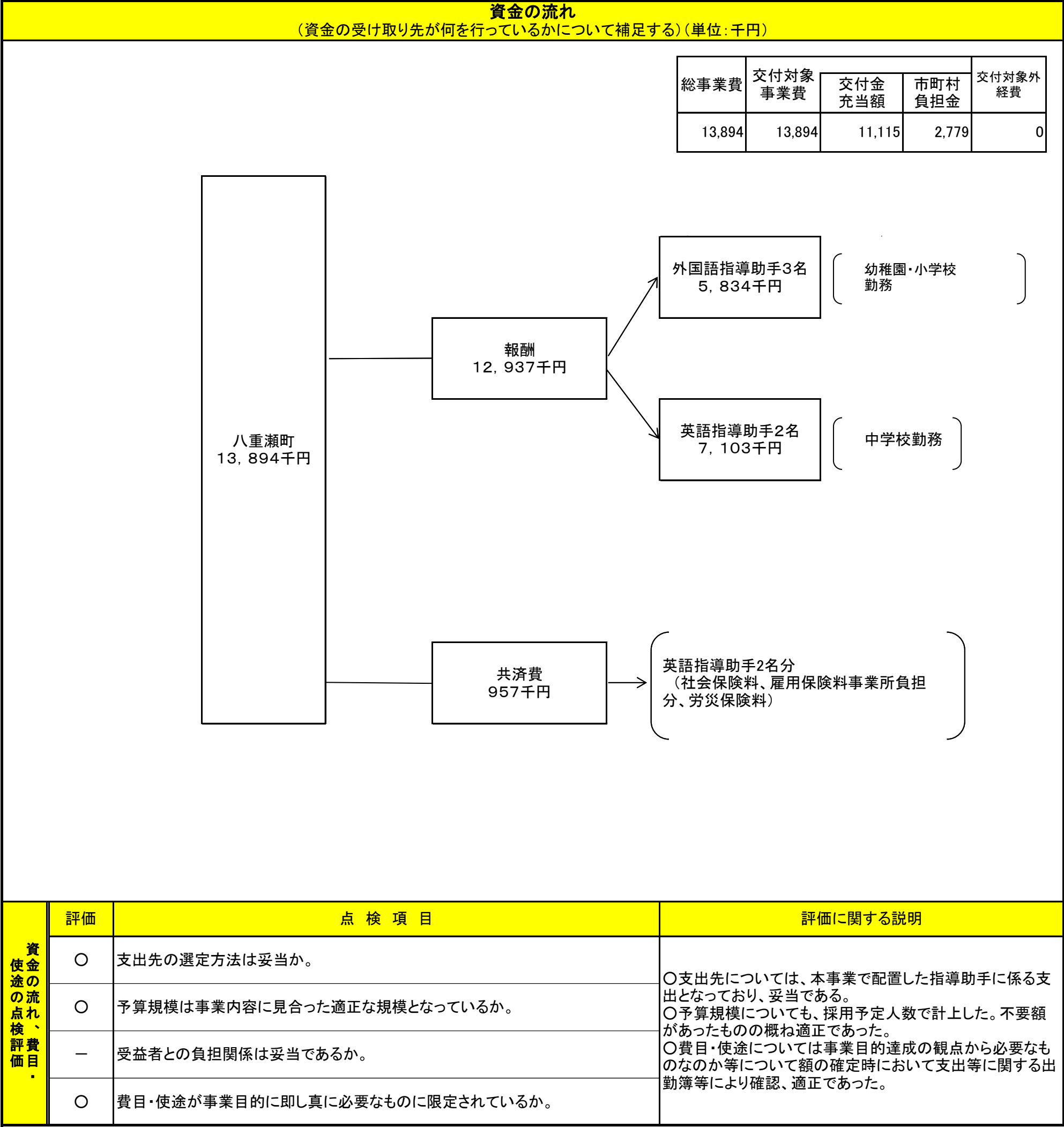
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本事業は子ども会を中心として、地域のリーダーとなる児童生徒を育成していく観点から実施しているものであるが、子供会参からの加者について、児童の応募が想定見込みよりも少ない状況が生じている。これについては、部活動や習い事等の放課後活動の多様化に伴い放課後の居場所としての子ども会の利用が減少している状況にあること、地域の大人による子ども会への活動についての協力が低調となっている会等があることも要因として考えられる。 ・一度参加した経験のある児童については参加不可という点も、参加人数の増という観点での取り組みを行うにあたっては困難が生じている。	・参加者が見込みを下回る背景要因として子ども会の活動低下が課題としてある中で、子ども会活動を始めとする地域活動を担うリーダー人材の養成を促進することが、子ども会の活性化につながるものと考えられる。また、短期的には子ども会の役割や、研修で実施する内容などについて広報の取り組みを強化することが考えられる。 ・参加人数についてこれまでどおりにこだわるのではなく、事業規模について見直しを行うことを検討し、人数を絞った上で研修メニューの充実化を行うことにより、研修の魅力向上を図り、応募者数の増が図られるものと考えられる。
今後の取り組み方針		
・子ども会を通して募集の周知を引き続き行うとともに、町としても参加の呼びかけを継続し、実施していく。 ・これまでの参加人数等を勘案した上で、研修の人数を減少させることを検討する。更に、従来は人数が多く実施できなかった体験活動等の実施ができるようになることが見込まれるため、研修内容について、併せて見直しを行っていく。これにより、研修メニューの充実化を図り、研修の魅力向上による、参加率の向上を図る。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>640</td><td>443</td><td>346</td><td>97</td><td>197</td></tr></table> 八重瀬町 443千円 → 補助金 443千円 → 八重瀬町子ども会 育成連絡協議会 443千円 （ 渡嘉敷への旅費・シーツ代 貸し切りバス代 ） （ 対象外経費 食糧費等 197千円 ）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	640	443	346	97	197
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
640	443	346	97	197										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○町の補助金関係の例規・要綱に従い選定されており妥当である。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予定していた取組内容に相応した規模となっており、適正であった。										
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○参加者に対して応分の負担を依頼していることから、妥当であった。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において関係書類等により確認、適正であった。										

市町村名	八重瀬町						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1－④	八重瀬町外国語指導強化事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア	
担当部課名	八重瀬町教育員会　学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成24～33年度			国際社会、情報社会に対応した教育の推進	
					沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－3	
事業内容	国際化や情報化に対応した国際性豊かな広い視野を持ち、幼小中の段階にふさわしい「体験的な学習」「言語活動」を通して、柔軟に対応できる力を養うため、町内の幼小中に配置する。						
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）						
実施方法	■直接実施　　□委託　　□補助　　□負担　　□その他（報酬）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	11,923	14,398	14,246	14,163	14,227
		(b) 予算現額	11,923	13,935	14,246	13,099	14,227
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 463	0	▲ 1,064	0
		(d) 前年度繰越額	－	－	－	－	－
		A. 計 (b+d)	11,923	13,935	14,246	13,099	14,227
	B. 執行済額		11,923	13,935	13,656	13,099	13,894
	うち交付金充当額		9,539	11,148	10,925	10,479	11,115
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	95.9%	100.0%	97.7%
予算の状況の説明		当初の計画とおり、4月～3月までに期間、5人を配置し指導を実施した。事業費について、指導助手の実績に基づく報酬の残であり、計画通りに外国語指導助手・英語指導助手を配置し、計画通りの執行となった。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況				
				26年度	27年度	28年度	29年度
	・国語指導助手配置 4園4小	目 標	（　幼小へ配置　）	（　幼小へ配置　）	（　4園4小へ配置　）	（　4園4小へ配置　）	
		実 績	配置	配置	4園4小配置	4園4小配置	
	・英語指導助手：2人 （2中へそれぞれ配置）	目 標	（　2人　）	（　2人　）	（　2人　）	（　2人　）	
		実 績	2人	2人	2人	2人	
	達成状況説明	外国語指導助手（幼小兼務）3人を町内の4園4小へ配置した。 英語指導助手2人（中学校）常勤嘱託員として町内の2中へ配置した。 総合計画に基づき外国語指導助手を3人及び英語指導助手を2名配置計5名を目標どおり配置したことで、幼稚園や小学校低学年においては、外国人講師とのふれ合いや異文化交流を通して、今後導入される小学校3年生への外国語活動を推進するなどの取組を行った。 中学校においても指導助手を引き続き配置し、基本的なコミュニケーションの手法や文法の理解を深めている。					

H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
成果目標 (指標) 及び進捗状況	・配置率100%	目 標	()	()	(100%)	(100%)	()
		実 績			100%	100%	
	・H29年度児童生徒数 4園286人 4小学校2,086人 2中学校986人	目 標	()	幼稚園 269人 小学校 646人 中学校 938人	4小学校 (5.6年生) 620人 2中学校 985人	幼稚園 286人 小学校 2,086人 中学校 986人	()
		実 績		幼稚園292人 小学校641人 中学校942人	小学校620人 中学校986人	幼稚園273人 小学校2,187人 中学校982人	
	・児童生徒の英語学習への興味・関心度 65%以上	目 標	()	()	()	(65%以上)	()
		実 績				89%	
	・英語検定受験者中7割合格	目 標	()	(80%)	(80%)	(70%)	()
		実 績		62.6%	59.7%	68.0%	
	【H30成果目標】 小学校: 英語に対する興味・関心が高まったか	目 標	()	()	()	()	80%以上
		実 績					
	【H30成果目標】 中学校: 沖縄県学力到達度調査(英語)における、県と本町との平均正答率の差	目 標	()	()	()	()	-1ポイント以上
		実 績					
	進 捗 状 況 説 明	・100%配置を達成できたほか、各生徒数については、受講者数は中学校で4人下回ったものの、概ね達成することができた。 ・児童生徒の英語学習への興味・関心度に関するアンケート調査からは、児童生徒の関心度が高まっていることが窺える結果となり、目標を達成できた。 ・英語検定の合格率については、中学生全生徒982人中280人が受験し、190人が合格した。合格率の目標値を下回ったものの、過去2ヶ年と比較し、上昇傾向にはあった。不合格者の不合格の要因としては、文法能力について不足が見られるのが要因と考えられる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・英語検定については目標合格率までには届いていない状況が続いている。 ・学習指導要領改訂に伴い、小学校で外国語活動が3、4年生に導入され、指導内容が大幅に変更になることから、指導要領改訂に伴い、英語を教科として指導していくための方法・体制に対しての工夫が必要である。	・英語検定の合格率向上に向けては、日頃の英語教育への興味関心を喚起するとともに、英検受験の有用性などを周知することで、主体的な学習・受験がなされるようになり、合格率の向上に寄与するものと考えられる。 ・現状は外国語指導助手(幼小兼務)として、短時間勤務で幼稚園と小学校を兼務する形となっているが、小学校担当は小学校のみを受け持つ形式とし、中学校担当が幼稚園を併せて受け持つことで、負担を分散させつつ、小学校における指導の充実に繋げることが可能となると考えられる。 また、小学校における英語の習熟状況等の共有を図ることで、中学校での指導がより行いやすくなるものと考えられる。
今後の取り組み方針		
・幼稚園児には英語の楽しさを伝えるとともに、児童生徒においては英語スピーチコンテスト等や英語検定対策等へ積極的に関わらせるよう取り組むことで、児童生徒の英語への興味・関心や英語力の向上に取り組み、英検受験およびその合格に向けて取り組む児童生徒の増加を目指す。 ・小学校における学習指導要領の改正移行期間に併せて、外国語指導助手の雇用形態について、従来の1日4時間勤務から、フルタイム勤務2名へと変更を行うとともに、当該2名については、本町の4小学校のうち2校ずつを担当させ、小学校2校に対し、外国語指導助手1名の体制を構築する。これに伴い、従来外国語指導助手が担当していた幼稚園での英語関係の取組については、中学校担当者(従来と同様フルタイム2名)が兼務することとして取り組んでいく。 併せて、指導主事や各学校英語担当教諭と派遣講師との間で、小中学校間の情報交換を行うなど、各校の英語の習熟度の状況や取組内容の共有を図るとともに、連携体制の強化、指導内容のレベルアップに繋げていく。		



市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1－⑤	八重瀬町パソコン指導強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア			
担当部課名	八重瀬町教育員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進			
	Ⅲ－3							
事業内容	児童生徒の情報端末操作技術の向上を図るため、町内小中学校へパソコン指導員を配置し、パソコンを使用する授業のサポートを行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（報酬）							
予算額・執行額【単位：千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,632	7,742	7,655	7,970	8,108	
		(b) 予算現額	6,632	7,424	7,872	7,877	8,108	
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 318	217	▲ 93	0	
		(d) 前年度繰越額	－	－	－	－	－	
		A. 計(b+d)	6,632	7,424	7,872	7,877	7,877	
	B. 執行済額		6,632	7,424	7,872	7,877	6,557	
	うち交付金充当額		5,305	5,939	6,297	6,301	5,245	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	83.2%	
予算の状況の説明		年度当初の計画では4月より4名の配置であったが、人材が思うように集まらず、1名採用できない期間が8ヶ月間あったための不要額1,320千円である。						
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	パソコン指導員配置数:4名 (小学校に2名配置・中学校に2名配置)	目 標	(パソコン指導員配置 小学校2名 中学校2名)	(パソコン指導員配置 小学校2名 中学校2名)	(パソコン指導員配置 小学校2名 中学校2名)	(4名)		
		実 績	配置済み	配置済み	配置済み	4名		
達成状況説明	年度当初より、募集を行いパソコン指導員を4人雇用で計画をしていたが1名採用できない期間が8ヶ月間あった。その間、3名を各小中学校へ、ローテーションを組み配置することで対応した。最終的には計4名を計画通り配置することができた。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (26年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	配置率100%	目 標	()	()	(100%)	(100%)	()	
		実 績			100%	100%		
	H29年度児童生徒数予想 小学校2,086人・中学校986人	目 標	(小学校 1,940人 中学校 938人)	(小学校 1,940人 中学校 938人)	(3,067人)	(小学校 2,086人 中学校 986人)	()	
		実 績	小学校1,940人 中学校938人	小学校2,007人 中学校942人	小学校2,048人 中学校965人	小学校2,187人 中学校982人		
	ワープロ検定 受検者中8割合格	目 標	(80%)	(80%)	(80%)	(80%)	()	
		実 績	73.7%	76.1%	80.0%	69.2%		
	ICT機器等活用率 60%以上	目 標	()	()	()	(60%以上)	()	
		実 績				91%		
	【H30成果目標】 児童へのアンケートで、ICT機器を活用できたと感じたか	目 標	()	()	()	()	80%以上	
		実 績						
	進捗状況説明	・パソコン指導員を100%配置することができ、4小学校2, 187人と2中学校982人で、児童生徒数の実数が変動したことに伴い、小中学校毎の個別の目標値については乖離が生じたものの、小中学校の平成29年度児童生徒数である計3,169名（全児童生徒）がPCの授業を受講した。 ・ワープロ検定合格率は未達成となった。要因としては、支援員の配置が不測したことに伴い、本務教員による指導への支援が相対的に少なくなったことから、情報教育中心の指導となり、タイピング練習等ワープロ検定の合格に必要な取り組みについては、合間を縫って行われることとなったため、十分な指導を行う時間の確保が難しかったことによるものと考えられる。 ・アンケート調査については、児童生徒の関心度は高く、プログラミングなど機器を活用したいという要望が高いことが窺えた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・総合計画に基づき、パソコン指導員を配置しパソコンの習熟などの情報科教育に取り組んだものの、ワープロ検定等への対応に必要な指導については、十分に取組むことが出来ない時期が生じた。 これは本務教員による指導内容については、インターネット等の活用に向けた情報モラルや調べ物学習等に必要な能力向上のための情報教育等を中心としているところであるが、指導員が不在となったことから、ワープロ検定対応等の指導について、本務教員がその他の情報教育等の合間を縫っての指導とせざるを得なかったことによるものである。	・年度当初よりの指導員充足を図ることで、本務教員と役割分担を行いながら、情報教育及びワープロ検定等の技能検定に係る指導を平行して実施することができるようになると考えられる。
	・受講生徒数及びワープロ検定合格及びICT機器の活用率等に係るアンケートの実施などで事業効果を確認してきたところであるが、今後の見直しに向けてより事業目的の効果(児童生徒がパソコンの操作技術を向上できたかどうか)を確認できる指標がないか、検討する必要がある。	・児童生徒において、機器の活用ができるようになったか等の観点でアンケートを行うことで、パソコン指導員の取組等の評価を可視化することが可能になるのではないかと考えられる。
	・今後の学習指導要領改定に際して、2020年に小学校でプログラミングが必修化されることを踏まえ、そうした授業への対応に向けて段階的に準備をしていく必要がある。	・学習指導要領の改定に際して、事前に必要な要素を検討することにより、必要な人員体制、授業の方法、資料等について事前に準備をしていくことが可能となる。
今後の取り組み方針		
・町広報等により事業実施後すぐに採用が可能となるよう、事前の採用募集の周知等を行うとともに、広く人材の募集を行い、早期に指導員を予定数充足できるように取り組んでいくことで、本務教員と指導員の役割分担による総合的な指導が実施できるような体制の構築を進めていく。 ・児童へのアンケートで、ICT機器を活用できたと感じたか(80%以上)を含めて調査することで、ICT機器の活用のあり方、パソコン指導員の活用のあり方などを検証できるようにする。 ・学習指導要領の内容について予め検討を進めていくとともに、段階的にプログラミングの授業なども取り組んでいくことで、移行期間中に、指導要領改定後に必要な要素の洗い出しに努めていくとともに、児童生徒の興味関心を高めていけるように取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>6,557</td><td>6,557</td><td>5,245</td><td>1,312</td><td>0</td></tr></table> 八重瀬町 6, 557千円 賃金 5, 771千円 共済費 786千円 小学校コンピューター指導員 2,232千円 (2名分) 中学校コンピューター指導員 3,539千円 (2名分) 小学校コンピューター指導員 315千円 (2名分 共済費(社保、雇用保険料、労災保険料)) 中学校コンピューター指導員 471千円 (2名分 共済費(社保、雇用保険料、労災保険料))					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,557	6,557	5,245	1,312	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,557	6,557	5,245	1,312	0										
資金の 使途の 流れ、 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、本事業で配置した指導員に係る支出となっており、妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模についても、採用予定人数で計上した。不要額があったものの概ね適正であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する出勤簿等により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	八重瀬町						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1－⑥	八重瀬町学力向上支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア	
担当部課名	八重瀬町教育員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ－3	
事業内容	児童生徒の学力に応じた個々の学習指導を行うことで、学力の向上を図るため、町内小中学校に学習支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（賃金）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,280	25,280	30,621	31,880	28,897
		(b) 予算現額	12,280	25,280	23,473	18,006	28,897
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 7,148	▲ 13,874	0
		(d) 前年度繰越額	－	－	－	－	－
		A. 計 (b+d)	12,280	25,280	23,473	18,006	28,897
	B. 執行済額		12,280	25,280	20,830	18,006	22,406
	うち交付金充当額		9,824	20,224	16,663	14,405	17,924
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	88.7%	100.0%	77.5%
予算の状況の説明		年度当初の計画では4月より16名の配置予定であったが、思うように人員が確保できなかった。その後随時採用を実施していたが、年度内の自己都合退職等もあったため、年間を通して14名分の配置となった。 当初想定していた人数よりも配置数が減となったことに伴い、6,491千円の不要額が生じることとなった。					
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	学習支援員配置数：16人 （小学校10人） （中学校6人）	目 標	（ 小学校10人 中学校6人 ）	（ 小学校10人 中学校6人 ）	（ 小学校10人 中学校6人 ）	（ 小学校10人 中学校6人 ）	
実 績		小学校10人 中学校6人	小学校9人 中学校7人	小学校8人 中学校4人	小学校10人 中学校4人		
達成状況説明	当初計画4月7日から3月23日までの契約で小学校へ10人と中学校6人の配置を予定していたが、人員の確保の遅れや学校の実情を踏まえて配置を調整し、小学校へ10名、中学校へ4名の配置とした。 目標の配置人数には届いていないが、学級の状況に応じてチーム・ティーチング方式の授業や少人数学級（きめ細やかな対応）への補助として配置することにより児童生徒へのきめ細やかな学習支援が行えた。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
	沖縄県学力到達度調査における、県と本町との平均正答率の差 小学校（国語・算数）－2ポイント以上	目 標	（ ）	（ 県平均 ）	（ －2P以上 ）		（ ）
		実 績		－0.55P	＋1.83P		
	沖縄県学力到達度調査における、県と本町との平均正答率の差 中学校（国語・数学）－3ポイント以上	目 標	（ ）	（ 県平均 ）	（ －3P以上 ）		（ ）
		実 績		－5.26P	－0.23P		
	進捗状況説明	県学力到達度テストにおいて、沖縄県の平均に対して、小学校は県の平均を超えることができた。 中学校に関しては県平均には届いていないものの差が縮まっており、目標を達成することができた。 小中ともに数値が改善し目標が達成できた要因として、学習へ向かう意欲・関心・態度が改善されたことが挙げられる。 教科を指導する先生をはじめ、学習支援員の粘り強い指導の成果でもある。 事業の実施にあたり、学校の実情に応じて、配置された学習支援員の効果を最大限に引き出すために、各学校における指導体制や少人数指導体制の工夫・改善を依頼しており、個別対応学習や一斉指導において、1日の時間割の中に支援員を効果的に配置している状況にある。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・各小中学校において、習熟度の低い児童生徒を対象に支援を行ったことで、基礎学力の定着に繋がっている。 ・学習支援員の確保が困難な状況にあり、各方面と連携し、情報交換等を行っているが、教員資格保持者が人材不足であるため年度初めからの採用に苦慮している。	・早い時期から、広報誌や八重瀬町ホームページでの募集はもちろんのこと・教育機関との情報交換、近隣市町村とも連携し、人材紹介等などを行って人材確保に努める。
今後の取り組み方針		
・各小中学校において、学習支援員との連携や活用方法について計画をたて、学習支援員の意識の向上とスキルアップのために、継続的な研修会を行う。 ・到達度テストにおいては、今回、小学校においては県平均を上回っており、更なる向上が期待できる。中学校においては県平均を下回っているものの、県平均に近づいてるので、県平均を上回るよう努力を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
22,406	22,406	17,924	4,482	0

八重瀬町
22,406千円

賃金 14人
19,476千円

共済費
2,930千円

学習支援員
14,397千円

学習支援員
5,079千円

学習支援員
10名分
2,156千円

学習支援員
4名分
774千円

〔 小学校10人 〕

〔 中学校4人 〕

〔 小学校
共済費(社保、雇
用保険料、労災
保険料) 〕

〔 中学校
共済費(社保、雇
用保険料、労災
保険料) 〕

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、本事業で配置した支援員に係る支出となっており、妥当である。 ○予算規模については、当初予算より大幅な不要額になったが、計画は適正である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する出勤簿等により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1－⑦	八重瀬町特別支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア				
担当部課名	八重瀬町教育員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成27～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進			
					Ⅲ－3			
事業内容	特別な支援を要する児童生徒に対応した支援を行うことで、学校生活や学習上の困難の改善を図るため、町内小中学校に特別支援員を配置する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（賃金）							
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	24,087	33,063	30,933			
		(b) 予算現額	22,443	24,948	30,933			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,644	▲ 8,115	0			
		(d) 前年度繰越額	－	－	－			
		A. 計 (b+d)	22,443	24,948	30,933			
	B. 執行済額		15,903	24,948	20,631			
	うち交付金充当額		12,722	19,958	16,505			
	次年度繰越額		0	0	0			
	執行率（％）(B/A)		70.9%	100.0%	66.7%			
予算の状況の説明		年度当初の計画では4月より20名の配置予定であったが、思うように人員が確保できなかった。その後随時採用を行った結果、最大19名の雇用ができたものの、年度内での退職等もあり、最大16名分の配置に留まった。このため、配置できなかった期間に係る10,302千円の不要額が生じた。						
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度		
	特別支援員配置数:20人 (小学校14人) (中学校6人)	目 標	(小学校18人 中学校2人)	(小学校14人 中学校6人)	(小学校14人 中学校6人)	()		
		実 績	小学校16人 中学校2人	小学校17人 中学校2人	小学校14人 中学校2人			
達成状況説明	当初計画4月7日から3月23日までの契約で小学校へ14名と中学校6人の配分であったが、学校の実情に応じながら調整し、小学校へ14名、中学校へ2名配置した。最大16名の配置となった。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（30年度）
	配置率100%	目 標	()	(20名配置)	(20名配置)		()	
		実 績		19名配置 配置率95%	16名配置 配置率80%			
	子どもの発達に応じた個に応じた支援	目 標	()	()	(支援)		()	
		実 績			支援実施			
	安全面への配慮の確立	目 標	()	()	(確立)		()	
		実 績			確立できた			
	先生方の指導の効率化(負担軽減)	目 標	()	()	(効率化)		()	
		実 績			効率化できた			
	支援児童者数160名	目 標	()	(38名)	(160名)		()	
		実 績		38名	160名			
	【H30成果目標】 対象となる児童生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応に満足したか	目 標	()	()	()	()	80%以上	
		実 績						
進捗状況説明	当初の計画では20名の予定で配置率100%を目標としていたが、年度途中からの採用や退職などで安定的な児童生徒への支援体制が完全ではなかったものの、最終的には特別支援員を16名配置し、体制の工夫により当初の目的はある程度達成することができた。支援を必要とする児童生徒160名に対して発達に応じた支援、安全面への配慮などを行うことで、支援体制の構築ができた。結果として、学校生活の安全の向上につながり、児童生徒の授業に対する意欲も向上したとの意見が多数寄せられるなど、先生方の指導の効率化にも資する結果となった。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・見守り等を要する児童生徒が普通学級に在籍し、支援を要する児童生徒が増加傾向にあり、担任だけでは学級運営が難しい状況が続いている。しかしながら、特別支援員について適性のある人材の応募が少なく、年度当初において配置予定人員を全員配置することができないことが課題となっている。 ・特別支援員において、より充実した支援を行っていけるようにするためには、支援教育等の知識の充足や、それを踏まえたスキルアップに向けた取り組みを行っていく必要がある。 ・支援員の配置による直接的な効果をより把握するための指標を検討する必要がある。	・年度当初の配置に向けて、人材募集をより幅広くに実施していく必要がある。 ・特別支援員と学習支援員の共通理解を図ることで、知識の獲得やスキルアップに繋がり、障がいや児童生徒個々の状況に見合った対応を行えるようになることで、児童生徒との間での信頼関係構築に繋がり、より充実した支援を行えるようになる。 ・支援員の配置により、支援を受ける生徒自身の意見を聞くことは中々難しいことから、保護者の意見を確認することで、支援員配置にかかる効果が検証できるのではないかと考えられる。
今後の取り組み方針		
・町の広報誌等による人材募集の告知を行うほか、教育現場等に対して、適切な人材がいなかどうかなどの情報提供をお願いし、人材確保に向けて直接的な呼びかけ等を行っていく。 ・特別支援員と学習支援員の合同研修会を年に数回行い、情報交換会や勉強会を実施していく。 ・対象となる児童生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応に満足したかなどを確認していくことで、事業見直しの必要箇所等について検討していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>20,631</td><td>20,631</td><td>16,505</td><td>4,126</td><td>0</td></tr></table> 八重瀬町 20,631千円 賃金 16人 17,969千円 特別支援員 15,775千円 (小学校4校14人) 特別支援員 2,194千円 (中学校2校2人) 共済費 2,662千円 特別支援員 14名分 2,525千円 (小学校 共済費(社保、 雇用保険料、 労災保険料) 特別支援員 2名分 137千円 (中学校 共済費(社保、 雇用保険料、 労災保険料)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	20,631	20,631	16,505	4,126	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
20,631	20,631	16,505	4,126	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、本事業で配置した支援員に係る支出となっており、妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、当初予算より大幅な不要額があったたが、計画は適正である。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する出勤簿等により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	八重瀬町						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧	切磋琢磨学力パワーアップ事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-7			
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	H26～H29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進		
					Ⅲ-3		
事業内容	町内中学校、県教育委員会の学力向上の主要施策「にぬふぁ星プランⅢ」の基に推進されてきたが、未だ全国学力・学習状況調査では全国と大きな差があるため、学力向上の1つの事業として、土曜講座や長期休業中講座等の補習を中心に、学力向上を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,970	14,970	14,971	14,970	
		(b) 予算現額	14,970	14,970	14,970	14,970	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 1	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	14,970	14,970	14,970	14,970	
	B. 執行済額		14,000	14,944	13,898	14,956	
	うち交付金充当額		11,200	11,955	11,118	11,976	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		93.5%	99.8%	92.8%	99.9%	
予算の状況の説明		不用額が14千円発生しているが、入札残によるものであり、適正に執行済みである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	土曜講座 (平成29年6月～平成30年3月)	目 標	(平成26年8月～平成27年2月)	(平成27年6月～平成28年2月)	(平成28年6月～平成29年2月)	(平成29年6月～平成30年3月)	
		実 績	平成26年8月～平成27年2月	平成27年8月～平成28年3月	平成28年7月～平成29年3月	平成29年6月～平成30年3月	
	定期テスト補習講座	目 標	(4回)	(4回)	(5回)	(実施)	
		実 績	0回	中間テスト5回 期末テスト5回	中間テスト3回 期末テスト5回 学年末テスト5回	実施	
	長期休業中講座	目 標	(20日間)	(20日間)	(5回)	(実施)	
		実 績	夏期講座5日 秋期講座5日	夏期講座5日	夏期講座5回	実施	
	三年生対象高校入試模試	目 標	(-)	(-)	(1回)	(実施)	
		実 績	-	受験対策プレテスト5回	受験対策プレテスト1回	実施	
達成状況説明	・土曜講座は、平成29年6月から平成30年3月までの間で、13:30～15:30に各中学校で合計34回行われた。 ・定期テスト補習講座については、中間テスト6回、期末テスト3回、学期末テスト4回で各校あわせて合計13日間開催された。 ・長期休業中講座については、夏期講座 12:30～14:30(具志頭地区)、15:30～17:30(東風平地区)各地区5日間開催された。 ・中学三年生を対象とした高校入試模試については、昨年同様1回実施を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査(国語・数学)における、県と本町との平均正答率の差 -3ポイント以上	目 標	()	(差5ポイント以内)	(-3ポイント以上)		()
		実 績		差11.8ポイント	-0.23ポイント		
	進捗状況説明	早期の取り組みで6月に講座を開始し、4年目ということもあり学校現場とスムーズな連携が展開できた。 受講者数は、土曜講座で東風平地区・具志頭地区ともに延べ人数が増となり、定期テスト補習講座及び長期休業中講座では昨年度より人数は減となったものの、想定数を上回る受講者数になった。中学三年生に関しては今年度も高校入試模試を実施し、昨年度に引き続き受講生の全員が実際に志望する高校へ合格する事ができた。 また、沖縄県学力到達度調査において県平均との差が-0.23ポイントで県平均には達していないが、昨年度より県平均との差が縮まり、県平均との差-3ポイント以上の目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○沖縄県学力到達度調査では、県平均との差が縮まってきているが、未だ平均へは達していない。 全体的には児童生徒の受講を促すことによる受講者数の増が、結果の底上げに繋がっているものと考えられる。生徒数の増の要因としては、土曜講座の午後開催により、部活動の時間とずらしたことによる参加者の増などが、参加者延べ人数の増に繋がっている。 しかしながら、基礎学力の低い生徒の参加が少ない状況が見られることから、今後は正答率30パーセント以下の生徒の受講促進が課題として挙げられる。	○土曜講座の開催時間を午後に設定することにより参加者の増加に繋がったが、平日の放課後に開催することを検討することで、部活生の参加及び、さらなる受講者の確保に資するものと考えられる。特に、沖縄県学力到達度調査で正答率30パーセント以下の生徒の受講を促進することで、全体の底上げにつながっていくものと考えられる。。
今後の取り組み方針		
○学校と連携し、全国学力学習状況調査及び沖縄県到達度調査の正答率30パーセント以下の生徒への働きかけを強化していくとともに、土曜から平日の放課後へ講座へ実施日及び時間を変更し、参加及び出席率の増加を図る。また、事業開始時期を6～7月に位置付け、早期の取り組み開始を図り、円滑な運営を進めることで、事業の充実につなげるとともに、個別指導を中心に自己肯定感を高めながら基礎的・基本的な事項の定着を図り、学習意欲の向上につなげていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
14,956	14,956	11,976	2,980	0

八重瀬町
14,956千円

委託料
14,956千円

一般社団法人 教育振興会
14,956千円

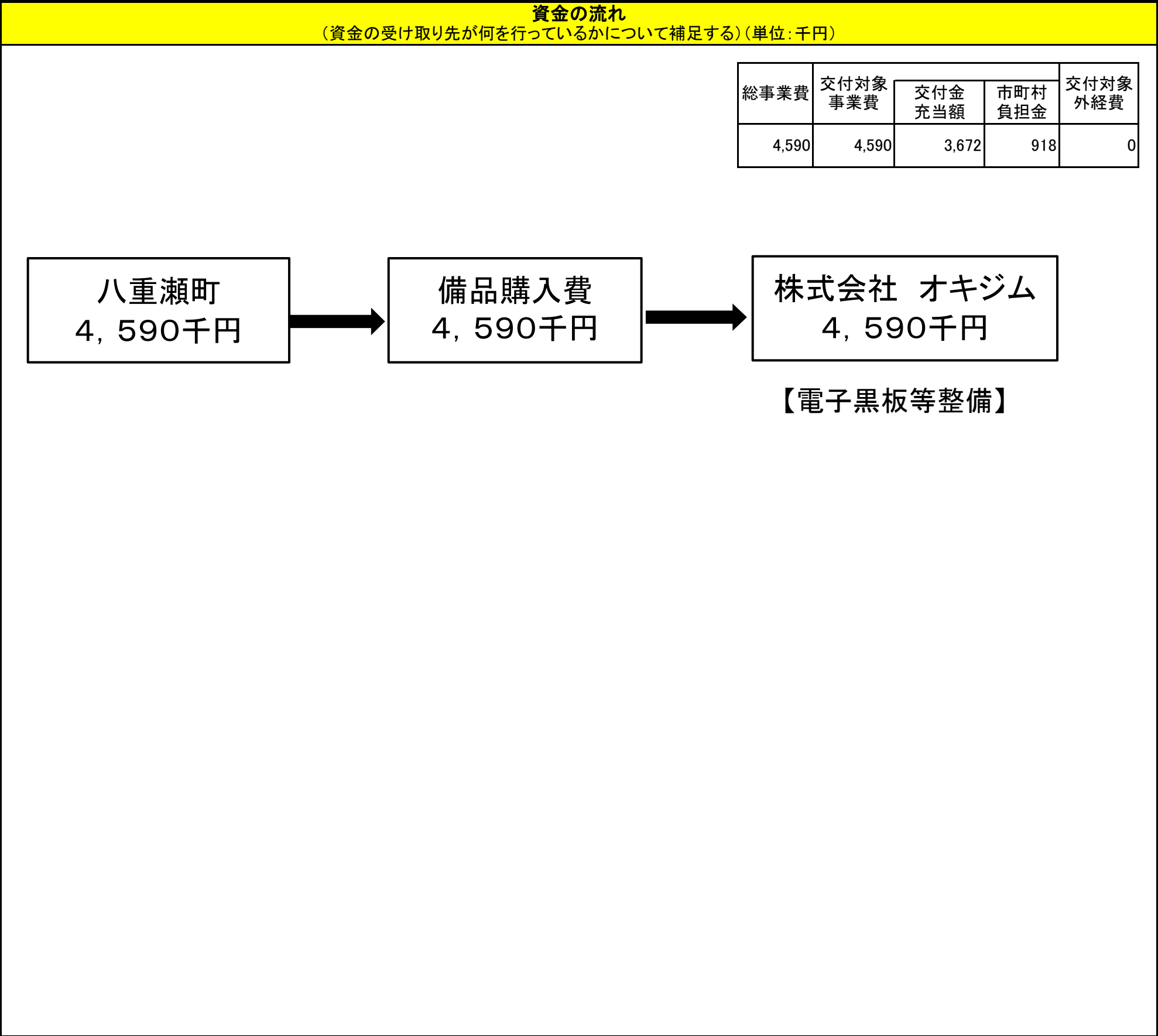
学習支援として講師派遣

土曜講座・長期休業中講座・
定期テスト前対策講座等 開講

資金 使 途 の 流 れ 、 費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。 ○不用額は全体の1%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	八重瀬町										
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	1－⑨		ICT]教育強化事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－5－(2)－(ア)		
									公平な教育機関の享受に向けた環境整備		
担当部課名	教育委員会 学校教育課			事業実施(予定)年度		H29年度		沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ－3	
事業内容	学校教育の質の確保を図るため、町内小学校にICT機器を整備する。										
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)										
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()										
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)	予算の状況				26年度	27年度	28年度	29年度	30年度		
			(a) 当初予算額		95,713	9,949		4,908			
			(b) 予算現額		95,713	11,558		4,908			
			(c) 増減額 (b-a)		0	1,609		0			
			(d) 繰越額		0	0		0			
			A. 計 (b+d)		95,713	11,558		4,908			
			B. 執行済額		93,301	11,210		4,590			
			うち交付金充当額		74,640	8,968		3,672			
			次年度繰越額		0	0		0			
			執行率 (%) (B/A)		97.5%	97.0%		93.5%			
		予算の状況の説明 当初計画より減額となったが、入札残によるものである。各小学校に電子黒板及びPC5台を設置。計画通りの執行となった。									
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)				達成状況						
					26年度	27年度	28年度	29年度			
	未設置教室への電子黒板及びPC設置				目 標	(90台)	(11台)	()	(5台)		
					実 績	115台	13台		5台		
	生徒発表用PCを各校へ設置				目 標	()	(6台)	()	()		
					実 績		6台				
	達成状況説明	当初の計画通り、4小学校に対して5台の電子黒板及びこれに付属するPCを設置した。 内訳としては、東風平小学校、具志頭小学校、新城小学校に1台ずつ設置するとともに、白川小学校に2台設置した。									
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)		
	児童にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上				目 標	()	()	()	(80%以上)	()	
					実 績				89%		
	【H30成果目標】 町内小中学校の普通教室への電子黒板及びパソコン導入率を100%にし、年間授業日数の30%以上の活用を目指す				目 標	()	()	()	()	30%以上	
					実 績						
	【H30成果目標】 全国学力学習状況調査の平均正答率を、全国平均				目 標	()	()	()	()	小学校: +5ポイント以上 中学校: 県平均-3ポイント以上	
					実 績						
進捗状況説明	小学校4校に電子黒板及びPCを目標通り設置し授業を展開。各小学校のICT機器を利用した授業に対しアンケートを実施し、成果を検証した。 結果、「授業がわかりやすくなった」との回答は89%であった。 また、ICT機器を利用した授業は楽しいですか？の問いに対し「楽しかった:90%」、授業に集中できるようになりましたか？の問いに対し「集中できるようになった:82%」となっており、授業を楽しく受けることができるとともに、授業内容の理解も深まっているとの結果が出た。										

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・デジタル教科書等の導入をしていることで、児童生徒の興味関心を高めることに資しているが、学力向上を目指していくにあたり、よりその効果を高めるための方策を検討する必要がある。	・児童生徒が個人で活用することが可能なタブレットを導入することにより、子ども達一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）や子ども達同士で教え合い学び合う共同的な学び（共同学習）への取り組みを行うことができるようになることから、デジタル教科書のさらなる活用に資することが期待でき、児童生徒の授業への興味関心を高めることに繋がることから、学習への取組強化、学力向上に資することが期待できる。 また、引き続き先生方に対してデジタル教科書と電子黒板の活用方法の普及を図ることで、利活用の度合いを引き上げていくことに繋がる。
今後の取り組み方針		
・平成30年度以降において、各学校に児童生徒用のタブレット端末の導入及びそれに付随して必要な無線LAN等のICT環境の構築を行うことを検討していく。 ハード面の整備の検討と並行し、全ての小中学校にデジタル教科書が導入されているので、デジタル教科書と電子黒板を上手く活用できるよう研修会等を引き続き実施する。		



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額については、6.5%となっているが入札残による不用額の為、適正であった。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については清算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	八重瀬町							
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-①	八重瀬町イベント事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ			
担当部課名	観光振興課	事業実施 (予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の 展開		
事業内容	観光客誘客を図るため、町特有の地域資源を活用したイベントを行い、国内外へ情報を発信することで観光地の集客を図り、地域特産物等のPR等を実施する団体を支援する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	17,825	4,319	5,616	9,600	8,600	
		(b) 予算現額	17,913	5,235	6,314	13,979	8,600	
		(c) 増減額 (b-a)	88	916	3,135	4,379	0	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計 (b+d)	17,913	5,235	8,751	13,979	8,600	
	B. 執行済額		17,913	5,235	6,314	13,979	8,347	
	うち交付金充当額		12,968	4,211	5,051	10,250	5,054	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	72.2%	100.0%	97.1%	
予算の状況の説明		「こいのぼりあしび実行委員会」「やえせ桜まつり実行委員会」の運営補助金について、適切に執行した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	こいのぼりあしびイベントの開催支援	目 標	(支援実施)	(支援実施)	(支援実施)	(支援実施)		
		実 績	支援実施	支援実施	支援実施	支援実施		
	青年エイサー祭りの開催支援	目 標	(支援実施)	(支援実施)	(支援実施)	(支援実施)		
		実 績	支援実施	支援実施	支援実施	未実施		
	やえせ桜まつりイベントの開催支援	目 標	(支援実施)	(支援実施)	(支援実施)	(支援実施)		
		実 績	支援実施	支援実施	支援実施	支援実施		
達成状況説明	こいのぼりあしび:トビウオを主とした地域PRを実施するとともに、体験メニューを充実させ集客の強化を図った。 青年エイサー祭り:YAESE結フェスタの中での取組へと変更することとなったため、29年度については青年エイサー祭りの開催を見送ったことから、支援を実施せず、交付金としての活用を取りやめている。 やえせ桜まつり:八重瀬公園の桜を沖縄南部桜の名所として広くPRし地域活性化に寄与した。今年度はライトアップ(1/26～2/12)への集客を図り、八重瀬公園へより長い期間の来場・誘客となるよう取組を行った。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	こいのぼりあしび来場者数	目 標	()	(2,500)	(3,500)	(3,500)	()	
		実 績		3,000	5,000	3,600		
	青年エイサー祭り:来場者数	目 標	()	(10,000)	(10,000)	(11,000)	()	
		実 績		10,000	10,000	-		
	やえせ桜まつり来場者数	目 標	()	(5,000)	(4,000)	(5,500)	()	
		実 績		5,000	4,300	4,700		
	【H30成果目標】 対象イベントへの来場者数	目 標	()	()	()	()	21,015人以上	
		実 績						
	進捗状況説明	各イベントを運営するため実行委員会への補助を行い、補助金は企画に対する経費等に充てられた。 まつりの来場者数はシャトルバス利用者数・入口におけるカウント・目測カウント等を元にした推測等により算出し、各イベントとも概ね目標を達成したことにより、八重瀬町のPR事業として効果があったと考える。 青年エイサー祭りについてはYAESE結フェスタの中でエイサー演舞等の実施を行うこととして、29年度は祭りの開催を見送ったことから、交付金の活用も行っていない状況であるが、成果目標としては未達成となった。 八重瀬桜まつりについては、雨天等により来場者数が減となったことから、成果目標の達成には至らなかった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○ターゲットとなる地域内外の方々へ、イベントの主旨目的及び八重瀬町の魅力が伝わるように多様な情報発信の方法を実践し、誘客につなげるようにするとともに、悪天候時におけるイベント運営・来場者への対応を検討する必要がある。 ○地域活性化を促すよう、地域全体で観光客を始めとする来場者を受け入れる仕組み創りの構築を行うとともに、各イベントで十分な自主財源を確保し、継続可能な体制の構築をしていく必要がある。	○悪天候（雨天、強風）等の際にも来場の動機づけを維持できるようなイベントを同時に開催するなどの工夫を行うことで、中止にならない程度の天候時における来場者の確保につなげるとともに、イベントを入り口として、体験活動やガイドツアーを実施することで、八重瀬町の魅力発信を行っていくことが可能となると考えられる。 ○イベントの際における観光関連施設の活用や、増加傾向にある外国人観光客の受け入れ体制の向上を図ることで地域の観光資源等をあわせて案内することができ、地域活性化に繋がるものと考えられる。 また、企業協賛金等についてイベントの趣旨・目的について丁寧に説明を重ね、理解を求めていくことで、幅広く協賛を募ることにより自主財源の確保に資するものと考えられる。
今後の取り組み方針		
○県内旅行社やホテル等への情報発信・プロモーションを行い、イベントをツアー商品に組み込むよう働きかけるとともに、「こいのぼりあしび」「やえせ桜まつり」において観光客向けのガイドツアーや工芸製作体験等、参加型の八重瀬体験プログラムを実施したが、これをより充実させるほか、ステージイベントや各種コンテスト等の開催により、滞在時間の長時間化や、八重瀬の魅力を発信する機会の確保などに努め、悪天候などへの対応にもつなげていく。 ○「八重瀬町観光拠点施設」と連動し、積極的に活用する取組の実施をしていく、会場へのアクセス向上（臨時駐車場の確保、シャトルバスへの導線設定）を図るなどの取組により地域全体でイベント時に観光客を受け入れる体制を整えるほか、外国人の来場が引き続き増加傾向にあるため、外国語によるSNSを活用した情報発信、多言語対応可能なイベントスタッフの確保、案内表示等を実施する。 また、自主財源の確保に向けて、企業協賛金についてイベントの趣旨・目的への理解を求めていくことで、幅広く協賛を募っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
8,347	8,347	5,054	3,293	0

八重瀬町
8,347千円

補助金
8,347千円

こいのぼりあしび実行委員会
3,926千円

やえせ桜まつり実行委員会
4,421千円

こいのぼりあしび
企画運営費、広告宣伝費、会場設営費、
イベント費、交通防犯対策費

八重瀬桜まつり
企画運営費、広告宣伝費、会場設営費、
イベント費、交通防犯対策費

資金 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。 ○予算規模については、見積書等を勘案しより安価で効果的な予算使途に限定しているため適正である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について精査し執行しており適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-②	八重瀬町観光地美化作業事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	土木建設課 スポーツ振興課 区画整理課	事業実施 （予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客受入体制の整備		
事業内容	魅力的な観光地としての景観形成を図るため、町内の観光客が訪れる観光地や施設、観光地アクセス道路等の美化清掃を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度(繰越)	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	—	53,896	54,624	54,487	54,355	
		(b) 予算現額	—	53,896	56,000	52,988	52,855	
		(c) 増減額 (b-a)	—	0	1,376	▲ 1,499	▲ 1,500	
		(d) 繰越額	7,829	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	7,829	53,896	56,000	52,905	52,855	
	B. 執行済額		7,829	52,216	52,402	52,015	47,591	
	うち交付金充当額		6,263	41,772	41,921	41,612	38,073	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	96.9%	93.6%	98.3%	90.0%	
予算の状況の説明		廃棄物処理費（伐採木）の処理について、事業者との調整の結果、当面の間は無料で処理していただける業者が見つかったことを受けて、役務費から不要となった予算1,500千円を減額した。 賃金において臨時雇用の美化作業員が、当初の作業員数より事業途中で減があり、再雇用を検討したが採用に至らなかったため、5,264千円の不用が生じた。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				27年度	28年度	29年度	30年度	
	観光施設及びアクセス道路の美化作業の実施	目 標	（ 美化作業の実施 ）	（ 美化作業の実施 ）	（ 美化作業の実施 ）			
		実 績	美化作業の実施	美化作業の実施	美化作業の実施			
達成状況説明	交付金対象施設及び路線の美化作業（草木の伐採等による景観美化の管理）を実施し、優先順位や必要性の高い場所等の検討及び調整をしながら定期的に行えたことにより安心安全な観光客の受入態勢を整えることができた。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （30年度）
	美化作業の完了 観光地：13 箇所	目 標	（ ）	（ 8 箇所 ）	（ 8 箇所 ）	（ 13 箇所 ）	（ ）	
		実 績		8 箇所	8 箇所	13 箇所		
	美化作業の完了 アクセス道路：45 路線	目 標	（ ）	（ 40 路線 ）	（ 40 路線 ）	（ 45 路線 ）	（ ）	
		実 績		40 路線	40 路線	45 路線		
	【H30成果目標】 観光地周辺の景観形成及び道路環境について、観光地としてふさわしい景観及び道路環境であると感じるか	目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	80%以上	
		実 績						
	進捗状況説明	観光地13箇所、アクセス道路45路線において美化作業を実施したことで沖縄らしい景観等を保つことができ、観光地内を快適に利用することができた。						

市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2－③	港川フィッシャー遺跡整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－(ウ)			
					観光客受入体制の整備			
担当部課名	生涯学習文化課	事業実施 （予定）年度	平成24～平成31年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(1)			
事業内容	町内から出土した「港川人」を含む更新世化石人骨は東アジアでも発見されているが、保存がよく全体の形態がわかるのは港川人のみとなっており、貴重な資料となっている。こうした港川人の出土地である「港川フィッシャー遺跡」の教育および観光資源としての活用に向けて、周辺整備を行う。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（ 年度）							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	10,240		11,297			
		(b) 予算現額	10,240		5,044			
		(c) 増減額 (b-a)	0		▲ 6,253			
		(d) 繰越額						
		A. 計 (b+d)	10,240		5,044			
	B. 執行済額		10,077		4,839			
	うち交付金充当額		8,061		3,870			
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）(B/A)		98.4%		95.9%			
予算の状況の説明		当初、基本設計と実施設計を同じ年に行う予定であったが、関係部署より基本設計を重点的に進めるべきとの意見があり、平成29年度の実施設計を見送った。このため、年度内に6,253千円の予算減額を行った。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	基本設計の作成	目 標	()	()	()	(作成)		
		実 績				作成		
	公園整備計画の策定（課題の整理、基本方針・基本施策の決定など）	目 標	()	(策定)	()	()		
		実 績		策定完了				
	ボーリング調査、測量	目 標	()	(調査・測量実施)	()	()		
		実 績		調査・測量実施				
	達成状況説明	年間利用者数の想定と施設規模の設定、管理運営計画、フィッシャーの位置の確認、基本設計の作成を行った。また、公園整備に向けて現状、課題の把握を行う為、有識者による整備検討委員会の意見を反映させた。						
	成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度
基本設計の作成完了		目 標	()	()	()	(完了)	()	
		実 績				完了		
【参考】 公園整備に向けて現状、課題の把握		目 標	()	(把握)	()	()	()	
		実 績		把握				
【参考】 公園整備設計に向けてボーリング調査と測量調査完了		目 標	()	(完了)	()	()	()	
		実 績		完了				
【施設供用開始後の成果目標】 供用開始1年目の目標として、ガイダンス施設利用者数		目 標	()	()	()	()	13,000人以上	
		実 績						
進捗状況説明		フィッシャーの割れ目の確認を当初10月に予定していたが、文化財に指定されていたため手続きに時間を要したものの、今まで想定していなかった方向へ割れ目があることが確認できたことから、その結果を基本設計をに反映しし、作成を行うことができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・基本設計を実施するなかで、公園整備において必要とされる機能の整理を行うとともに、整備および維持に要する費用を想定ではあるが把握することができた。その結果を踏まえつつ、財源の確保状況等を念頭において、今後の整備計画について、その必要性、緊急性を踏まえて検討していく必要がある。 ・今後順次実施設計等を行うにあたっては、構造物を予定している箇所においては、文化財関係の手続きを進めておく必要がある。	・観光客の受入体制としての優先度を検討し、順次計画的に整備していくことで、財源を確保しつつ、早急な受入体制の整備に繋げていくことが可能となる。 ・実施設計及び整備工事を進めていくにあたっては、事前に文化財関係の手続きを行う関係機関担当者と連絡を密にすることで、文化財指定区域における手続きを円滑に進めることに資するものとする。
今後の取り組み方針		
・平成30年度においては、当初予定していたガイダンス機能を有する施設の整備については後年度に見送ることとして、観光客が訪れた際に利用するトイレ等の整備を行うこととする。ガイダンス機能については、施設を今後整備するまでの間の当面については既存の資料館を活用することとし、資料館を訪問した観光客等への情報提供に努めることで、港川フィッシャー遺跡の有効活用を促進していける体制を構築していく。 ・施設の設計・整備・用地購入等を実施するにあたっては、事業実施決定後速やかに、文化財関係の手続きを円滑に進められるよう担当と密に連絡を取ること、円滑に業務を実施できる体制を整えていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>4,839</td><td>4,839</td><td>3,870</td><td>969</td><td>0</td></tr></table> 八重瀬町 4,839千円 → 委託料 4,839千円 → (株)真南風 4,839千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,839	4,839	3,870	969	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,839	4,839	3,870	969	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目・使途については、事業達成に向けた観点から、事業に対して必要なものかどうか支出等に関する書類を精査し執行をしているため適正だった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2－④	スポーツ観光活性化基本計画作成委託事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ				
				観光客の受入体制の整備				
担当部課名	スポーツ振興課	事業実施 （予定）年度	平成29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)			
事業内容	八重瀬町のスポーツツーリズムの振興を図るため、具志頭運動公園の再整備に向けた基本計画を作成する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☐ 後年度（ 年度）							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	8,000					
		(b) 予算現額	7,776					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 224					
		(d) 繰越額	－					
		A. 計 (b+d)	7,776					
	B. 執行済額		7,776					
	うち交付金充当額		6,220					
	次年度繰越額							
	執行率（％）(B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		入札の残に伴い不用が生じたことから、予算を224千円減額したが、取組内容については、当初の計画通り執行することができた。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	具志頭運動公園再整備基本計画の作成		目 標	（ 作成 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
			実 績	作成				
達成状況説明	○平成29年度において具志頭運動公園再整備を見据えた、具志頭地区観光スポーツ活性化基本計画の作成に取り組んだ。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （ 年度）
	具志頭運動公園再整備基本計画の作成完了		目 標	（ ）	（ 完了 ）	（ ）	（ ）	（ ）
			実 績		完了			
	進捗状況説明	○具志頭地区観光スポーツ活性化基本計画の作成にあたっては、検討委員会において検討を重ねた後、素案等を踏まえ住民説明会を実施した。それらの意見を踏まえ、平成30年3月に基本計画の作成を完了することができた。 ○後年度の利活用目標については、同計画の中で、国交省の基準を参考に59,000人程度を見込むものと算出したが、今後計画の具体化に伴い、適宜見直しを実施していく。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○八重瀬町スポーツ交流マネジメント計画の中で位置づけされた具志頭地区については基本計画を策定したことから、今後の財源等を踏まえて議論を重ねることにより、計画的な施設整備に向けてのスケジュールを作成し、スポーツツーリズム、観光スポーツの振興につなげていく。 その際には、町内の他の運動施設の整備状況との兼ね合いから整備優先度を検討し、随時実施していく必要がある。 ○施設の再整備にあたっては、金額が大きくなることが想定されることから、今後計画を具体化していく中で費用の軽減を図るとともに、財源の確保に努めていく必要があるほか、整備後の活用の需要見込についても、よりの確に見込みを作成していき、整備後の利用団体や大会等の誘致につなげていく必要がある。	○今後の整備については、東風平運動公園の整備スケジュールの見直しが生じたことから、具志頭運動公園については後年度の整備として計画していくことで、年間の施設整備にかかる財政負担の平準化につなげていく。 ○想定されるスポーツ等の公認がとれるような基準について事前に確実に把握をしておくことで、大会誘致等に必要な施設基準を満たすための計画策定を行うことが可能となり、施設整備後の需要の安定化に繋げることができる。
今後の取り組み方針		
○今後東風平運動公園やその他公共施設の整備状況の進捗を踏まえ、財源の目処および財政の見通し等を全般的に検討しつつ、31年度以降において基本設計、実施設計を行っていくことで、段階的に施設の有効活用が可能となる環境の構築につなげていく。 ○施設の需要を適切に把握するため、適宜必要に応じて類似施設の稼働状況等を調査していくとともに、基本設計、実施設計において施設配置や設備基準等についてそうした調査の結果を反映させて、規模を適宜見直していくことを検討していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
7,776	7,776	6,220	1,556	0

八重瀬町
7, 776千円

→

委託料
7, 776千円

→

総合技術コンサルタント
昭和株式会社
7, 776千円

(具志頭地区観光スポーツ
活性化基本計画の策定業
務)

資金 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。 ○不用額は無く、適切な規模だった。 ○費用・使途が事業目的に即し必要な物だった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2－⑤	八重瀬町戦跡整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ			
担当部課名	生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備			
事業内容	八重瀬町の地域資源を活用するため、町内の戦争遺跡を整備し歴史・平和学習等へ活用する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(30年度)							
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)			25年度(繰越)	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	—	45,100	25,000	58,500	36,000	
		(b) 予算現額	—	60,100	25,000	57,500	36,000	
		(c) 増減額 (b-a)	—	15,000	0	0	0	
		(d) 繰越額	86,403	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	86,403	60,100	25,000	57,500	36,000	
	B. 執行済額		75,910	56,146	24,911	57,399	35,986	
	うち交付金充当額		60,727	44,916	19,928	45,919	27,989	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		87.9%	93.4%	99.6%	99.8%	100.0%	
予算の状況の説明		平成28年度は、戦跡公園に遊歩道及び東屋等を整備したものである。 執行率も99.8%で、計画どおり執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	戦跡公園整備(遊歩道・芝生広場・駐車場)	目 標	(整備)	()	()	()		
実 績		整備						
達成状況説明	戦跡公園内に遊歩道・駐車場・芝生広場を整備した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	戦跡公園整備の完了	目 標	()	(完了)				()
		実 績		完了				
	【H30成果目標】 戦跡公園の年間入壕者数	目 標	()	()				18,000人
		実 績						
	進捗状況説明	平成29年度事業で戦跡公園内の遊歩道、芝生広場、駐車場を整備した。 これにより、平成25年度から29年度までにおいての予定していた事業内容を全て完了することができた。 従来は民有地を好意で利用させていただいている状況であったことから、教育旅行等を受け入れるにあたり、駐車場が整備できておらずバスが路上駐車状態になることがある、利便施設等がないため受入環境に問題があるなどの課題があったが、そういった課題を解消することができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	今後においては、公共施設として再整備した本戦跡について、保全・管理を適切に行いつつ、平和教育等での利活用を希望する学校等を含めた諸団体による利用を円滑に行える体制を官民で連携・構築し、対応していくことが必要である。	今後は適切に戦跡を町で保全・管理していくこととなるため、施設の利用受付については町で直轄して実施していくことが望ましいと考えられる。 また、平和教育に活用する際、実際の戦跡を訪問した際の壕内を案内するなどのガイドについては、ガイド役を担う団体が自主事業として実施するなど、民間との連携を行うことで、効率的な運営を行っていくことに繋がる。
今後の取り組み方針		
歴史・平和学習等に本戦跡を活用するに際しては、町が利用受付を行うとともに、平和教育等の窓口となっている南部の平和団体や、壕内の案内を行う村内のNPO等と連携し、取り組んでいくこととする。また、その他の観光体験施設や観光エリア等と併せて本戦跡についても適宜紹介していくことで、教育旅行の一環として歴史・平和学習が可能であることを示し、教育旅行における歴史・平和学習への活用を促していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>35,986</td><td>34,986</td><td>27,989</td><td>6,997</td><td>1,000</td></tr></table> 八重瀬町 35,986千円 委託料 3,769千円 (有)琉邦技研 2,862千円 (株)ナチュラエンジニアリング 907千円 工事請負費 26,651千円 (有)山川建設 26,651千円 公有財産購入費 4,959千円 個人(1名) 4,959千円 物件補償費 564千円 個人(1名) 564千円 事務費 43千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	35,986	34,986	27,989	6,997	1,000
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
35,986	34,986	27,989	6,997	1,000										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は、事業費の1%以内であり、適正な規模であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		2－⑥		運動公園施設等整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)－イ		
担当部課名		スポーツ振興課		事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「スポーツアイランド沖縄」の形成		
事業内容		プロチーム・大学のキャンプでも利用されるサッカー場・野球場・サブグラウンド等の施設を整備し、ハイレベルな練習環境等を整え、スポーツツーリズムの振興を図る。							
効果発現年度		■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法		☑直接実施 ☑委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
		(a) 当初予算額	10,571	9,247	15,390	24,904	20,771		
		(b) 予算現額	14,306	12,504	14,453	24,904	20,771		
		(c) 増減額 (b-a)	3,735	3,257	▲ 937	0	0		
		(d) 繰越額	－	－	－	－	－		
		A. 計 (b+d)	14,306	12,504	14,453	24,904	20,771		
		B. 執行済額	14,233	12,478	13,774	24,559	20,136		
		うち交付金充当額	11,386	9,983	11,019	19,647	16,109		
		次年度繰越額	0	0	0	0	0		
		執行率（％）(B/A)	99.5%	99.8%	95.3%	98.6%	96.9%		
予算の状況の説明		芝生管理業務の委託料の執行残として108千円と野球及びサッカーキャンプに伴う、備品購入費の執行残として527千円の不用額が生じたが、予定していた事業内容はすべて実施することが出来た。							
活動目標（指標）及び達成状況		H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度					
		サッカー場の芝生（プロ仕様）整備	目 標	（ 整備 ）	（ ）	（ ）	（ ）		
			実 績	整備					
		芝刈機、球場用雨除けシートの導入	目 標	（ 導入 ）	（ ）	（ ）	（ ）		
			実 績	導入実施					
達成状況説明		・東風平運動公園サッカー場において継続的に委託管理を行うことで、冬期間のキャンプ時に良好な芝生環境で練習ができるように受入環境の整備を行った。また隣接する多目的広場の芝生も管理及び整備を行った為、サッカーキャンプ誘致の環境整備を整えることが出来た。 ・芝生整備用機械（芝刈機）の購入により、野球場、サッカー場等の芝質の向上が図られ、実施団体にハイレベルな練習環境を提供することができた。 ・東風平野球場においては、管理用備品の購入により、降雨時におけるグラウンドを保護することが出来、キャンプが効率的に練習ができた。							
成果目標（指標）及び進捗状況		H29成果目標（指標）			基準値（ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（ 年度）
		県外からのスポーツキャンプ受入 野球チーム（2チーム） サッカーチーム（3チーム）		目 標	（ ）	（ 5チーム ）	（ 6チーム ）	（ 5チーム ）	（ ）
				実 績		6チーム	7チーム	7チーム	
進捗状況説明		スポーツキャンプ誘致は、野球キャンプが韓国プロ野球1チーム、県外大学2チーム、県外高校2チームで計5チームがキャンプ。サッカーキャンプについては、Jリーグ1チーム、中国倶楽部チーム1チームの計2チームがキャンプを行っており、個別に見た場合においては、野球キャンプの受入が5チームとなったことから、サッカーキャンプの受入は誘致を目指していたチームとの調整が不調に終わったことにより2チームの誘致となったものの、成果目標の5チームに対し、2チーム上回る7チームがキャンプを行い、成果目標を達成できた。 県内でキャンプを行っているJリーグや日本プロ野球との練習試合を目的に中国、韓国のサッカーチームや野球チーム、又、県外からの団体等のキャンプも増えて来ている。キャンプに伴い県外、海外から見学者等の観光客増による周辺の商店、飲食店等の経済効果もでている。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○サッカーキャンプの誘致に際しては、キャンプ受入チームの要望に沿った土壌の硬さに調整しながら整備・管理をしていく必要がある。	○専門業者との調整を行うとともに、キャンプ受入予定チームの要望等を事前に聞き取るなどにより、管理委託事業者との間で調整を行っていく。
今後の取り組み方針		
○サッカーキャンプでは、冬期間のキャンプ時に良好な芝生環境で練習ができるよう、継続的に専門業者への委託事業を実施し、良質な芝生の維持管理体制を整える。受入チームの要望にも対応できる管理体制を確立し、知名度のより高いチームのキャンプ誘致に取り組めるように「スポーツキャンプ誘致事業」との連携、受入体制を強化し、町への観光誘客に繋げていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>20,136</td><td>20,136</td><td>16,109</td><td>4,027</td><td>0</td></tr></table> 八重瀬町 20,136千円 委託料 14,796千円 東洋グリーン(株)沖縄営業所 14,796千円 東風平サッカー場芝生管理委託 備品購入費 4,860千円 (株)屋我商会 4,860千円 芝生、グラウンド整備用機械備品購入費 備品購入費 480千円 東洋グリーン(株)沖縄営業所 480千円 野球キャンプ備品購入費					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	20,136	20,136	16,109	4,027	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
20,136	20,136	16,109	4,027	0										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。 ○ 国土交通省の歩掛、または複数業者見積を参考として設計額を算出しており、予算 規模は適正であった。 ○ 費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、支出等に関する書類により精査確認し、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-⑦	八重瀬町サッカーキャンプ事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
	担当部課名	観光振興課、スポーツ振興課	事業実施 (予定)年度	平成26～平成33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容		Jリーグ加盟等のサッカーチームキャンプを誘致し、観光誘客とキャンプ来場者の町内周遊を促す。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
			(a) 当初予算額	895	2,695	9,947	2,045	
			(b) 予算現額	4,441	2,462	10,343	5,564	
			(c) 増減額 (b-a)	3,546	▲ 233	396	3,519	
			(d) 繰越額	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)		4,441	2,462	10,343	5,564		
	B. 執行済額		2,885	1,849	10,056	4,685		
	うち交付金充当額		2,308	1,479	8,045	3,747		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		65.0%	75.1%	97.2%	84.2%		
予算の状況の説明		キャンプ時の練習を円滑または効率的に進めるため、サッカーゴールネットの購入費と、、キャンプ周知するためのチラシ・ポスター作成費及び町内周遊ツールの作成費を補正により追加し、予算額の増加となっている。それ以外は、当初の予算に基づき執行している。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	・Jリーグチームのキャンプ誘致		目 標	(活動実施)	(活動実施)	(活動実施)	(誘致実施)	
			実 績	活動実施	活動実施	活動実施	誘致実施	
	達成状況説明	・平成29年度は、3年目となる「浦和レッドダイヤモンズ」と、中国のプロサッカーチーム「北京控股足球倶楽部」の誘致をした。また、Jリーグ加盟チームをもう1チーム誘致できないかと県と連携しアプローチを行ったが、誘致は叶わず、冒頭で述べた2チームの受入を行った。 誘致と合わせて実施した地域交流については、毎年恒例となった浦和レッドダイヤモンズによる「町内小学生向けサッカースクール」を実施し、プロ選手と交流することで子供たちの励みとなり、良い刺激となった。 また、キャンプ期間中、「浦和レッドダイヤモンズ写真展」を役場と町観光拠点施設にて開催し、町内周遊パスポートの配布・投函を合わせて実施し、キャンプを盛り上げるイベントを実施した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	キャンプ来場者数	目 標	()	(8,000人)	(8,000人)	(10,000人)	()	
		実 績		3,000人	6,266人	6,634人		
	Jリーグ2チーム、海外チーム1チーム以上の誘致	目 標	()	(3チーム)	(3チーム)	(3チーム)	()	
		実 績		3チーム	3チーム	2チーム		
	キャンプ来場者が冊子を活用し町内で消費した額250万円以上	目 標	()	(-)	(-)	(250万円)	()	
		実 績				134.6万円		
	進捗状況説明	・キャンプ来場者数については、チラシ・ポスター及び町内周遊ツールによるキャンプ周知を実施し、昨年度よりは多くの来場となったが、誘致したチームのキャンプが直前で決定したため周知期間が短かったこと、また、Jリーグ加盟チームの受け入れが1チームのみであったことや、本町で実施される練習試合が少なかったこともあり、昨年度と比較して大きな伸びではなかった。 ・Jリーグ加盟の「浦和レッドダイヤモンズ」と、中国チームの「北京控股足球倶楽部」のキャンプ受け入れを行った。他のJリーグ加盟チームへアプローチを行ったが、各々のチームの都合により誘致は叶わず、目標とする3チームには届かなかった。 ・キャンプ来場者へ町内周遊ツール(冊子)を配布し、冊子を活用し町内で消費した額を検証する試みを実施した。しかし、キャンプ決定が直前であったことが影響し、作成期間・周知期間が短く、目標額には届かなかったが、配布した来場者および参加した町内事業者からは好評であった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○今年度が3年目の受け入れとなる「浦和レッドダイヤモンドズ」については、誘致がスムーズであったが、「浦和レッドダイヤモンドズ」以外のJリーグ加盟チームについては、キャンプにかかる費用や希望する宿泊施設などが近場がない等、チームの事情により、本町でのキャンプは難しいとの回答であった。一方、海外チームについては、日本のチームと同時期にキャンプをすることで多くの練習試合が組みやすくなるメリットがあるため、チームの方からキャンプ実施の要望があるため、誘致活動を行うとともに、文化や価値観の異なる海外チームの受入体制をしっかりと整えることが課題となる。 ○キャンプ来場者が冊子を活用し町内で消費した額については、目標の達成ができていないが、要因としては、作成のタイミングがギリギリになり冊子等の活用についての周知期間が短かったこと、事前の想定よりもチーム数が減少したこと、本町における練習試合等が少なくなったことから、来場者数が少なかったことによる。しかしながら、実績として最低でも約134万円の経済効果はあったことが周遊ツールで計測できたほか、実際はこれ以上の効果はあったと考えられていることから次年度も継続した上で、より効果的な取組となるように努めていく必要がある。	○誘致活動は継続して行うことで、ビッククラブのキャンプ誘致に繋げることができる。また、海外チームを受け入れる際、文化の違いや価値観の違いを念頭に置き、事前に覚書を交わすなどの町でキャンプするにあたって留意していただく事項について事前に取り決めるほか、エーエージェントを通したチームとのやり取りの中で、町の責任で行う業務等について、事前調整を綿密に行うことにより、円滑なキャンプ受入を可能とし、本町への翌年度以降のキャンプ実施要望に結びつけていくことができると考えられる。 ○次年度においては今年度作成した冊子の経験を踏まえて、製作期間や配布期間、周知期間を長くとれるような体制で取り組むとともに、広報の見直しなどを行うことで、キャンプ来場者数の増および周遊客の増に繋げることが可能となると考えられる。
今後の取り組み方針		
○ビッククラブのキャンプ誘致に向けて継続した誘致活動の実施、サッカーキャンプを受け入れている県内他市町村と連携した誘致活動や観光プロモーションの実施を検討していき、J1チーム等のキャンプ受入を推進していくほか、県と連携し、海外のプロチームの誘致にも取り組んでいく。その中で、誘致するチームを検証・決定していくとともに、海外チームの誘致にあたっては、事前調整を密にし、必要な取り決めについては覚書を交わすなどにより対応していく。 ○周遊ツールによる経済効果等の把握に向けた取組については継続して実施していき、キャンプの効果をより把握できるように努めていく。また、従来はチラシの配布やポスターの掲示について取り組んでいたが、キャンプを行うチームの決定が年末のギリギリにまでかかることから、短期間でキャンプの実施にかかる周知広報が可能な手法がないか検討する。併せて、製作期間や配布期間を長くとるため、キャンプチームの決定前からポスターや冊子の制作に向けた業者の決定を早めるなどの取組を行うとともに、周遊ツールの効果向上を狙った企画の検討を行うほか、昨年度よりも参加事業者を増やすことで、冊子の利活用を促進する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>4,685</td><td>4,685</td><td>3,747</td><td>938</td><td>0</td></tr></table> 八重瀬町 4,685千円 旅費 179千円 町職員 3名 （キャンプ誘致訪問旅費） 需用費 249千円 （消耗品費 （告知横幕等） 委託費 3,512千円 セコムスタティック琉球株式会社 929千円 （有）アイドマ印刷 2,583千円 （キャンプ時の臨時警備委託） （誘客プロモーション業務） 備品購入費 426千円 （有）オリンピック運動具店 426千円 （サッカーゴール、ネット1組） 使用料 319千円 那覇鋼材（株） 9千円 レントオール 37千円 トップレンタル 131千円 （有）曙開発 142千円 （カメラ用足場 テント重り・横幕 仮設トイレ・バリケード）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,685	4,685	3,747	938	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,685	4,685	3,747	938	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については約16%残であるが、もし目標とする3チームの受け入れする場合を想定した際の予算であるため、規模としては妥当であると判断する。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使徒は精算時に検査しており、妥当であると判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-①	八重瀬町観光ブランド魅力創出事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ			
担当部課名	観光振興課	事業実施 （予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成		
事業内容	本町の地域資源を魅力ある観光資源として提供するために、地域資源の調査・ブラッシュアップを実施し、観光体験プログラムの作成や町内の観光客の受入体制を整備する。							
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度（ 年度）							
実施方法	□ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	10,000	19,684	19,440	19,438	19,440	
		(b) 予算現額	9,888	16,495	19,440	19,440	19,440	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 112	▲ 3,189	0	2	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	9,888	16,495	19,440	19,440	19,440	
	B. 執行済額		9,888	14,393	19,367	18,667	19,438	
	うち交付金充当額		7,910	11,514	15,493	14,933	15,550	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	87%	99.6%	96.0%	100.0%	
	予算の状況の説明		概ね当初予算どおり執行できた。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	県外観光プロモーションの実施 2回	目 標	(2回)	(3回)	(2回)	(2回)		
		実 績	2回	2回	8回	1回		
	誘客のための観光企画プログラムの作成 3個	目 標	()	(3個)	(3個)	(3個)		
		実 績		2個	5個	4個		
	体験観光の実証イベント 1回	目 標	(1回)	(1回)	(1回)	(1回)		
		実 績	1回	2回	1回	1回		
達成状況説明	県外観光プロモーションとして、福岡県博多駅前広場にて「八重瀬八景フェスタin博多」を開催した。沖縄県から比較的近い大都市である博多市の駅前で開催することで効果的なPRとなった。 誘客のための観光企画プログラムとして、八重瀬町の観光資源、人材を活かした体験観光プログラムを4個作成し、そのモニタリングと検証を行った。 体験観光の実証イベントとして、「八重瀬八景フェスタ～春祭り」を開催し地域内外へ八重瀬町をプロモーションを行った。さらに体験滞在型観光を進めるにあたり町内を周遊する仕組みとしてフットパスとポタリングの講演会及びモニタリングを実施した。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （30年度）
	誘客のための観光企画プログラムの実施	目 標	()	()	(3回)	(3回)	()	
		実 績				6回	4回	
	体験観光の実証イベント 来客数	目 標	()	(500)	(500)	(500)	()	
		実 績		5,000	6,200	3,700		
	【H30成果目標】 作成した体験観光プログラムに参加した観光客数	目 標	()	()	()	()	159人以上	
		実 績						
	【H30成果目標】 人材育成・強化プログラムへの参加者へのアンケートで、観光客へのおもてなしの心が向上したか	目 標	()	()	()	()	80%以上	
		実 績						
	【H30成果目標】 観光意識向上プログラム等への参加者へのアンケートで、観光への不安が解消されたか	目 標	()	()	()	()	80%以上	
		実 績						
進捗状況説明	誘客のための企画として、WEBサイト「ウーマンエキサイト」にて八重瀬町における親子旅のプロデュースなど、4件の実施となり、成果目標を達成できた。 「八重瀬八景フェスタ～春祭り」において体験観光の実証イベントを開催した結果、3,700人の来客があり、成果目標を達成できた。							

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	○八重瀬町が観光地として選ばれるような魅力を創り上げるとともに、そうした観光資源の魅力が伝わるように、各観光資源毎に想定するターゲットに向けたアプローチの在り方を検証し、実践し続けることが必要である。 また、体験滞在型観光及び交流型観光を推進するにあたっては、観光客受入体制の基盤構築及び仕組みづくり、人材発掘、育成を継続していくことが必要である。八重瀬町の住民及び事業者が八重瀬ブランドを誇れるようなものできるようにしていくほか、一過性の集客から継続した顧客へと質を向上していけるようにすべく、町民及び事業者のおもてなし等の向上に努めることが重要である。	○想定ターゲットを意識しながら観光資源のブラッシュアップ及びコーディネートを行うことで、八重瀬町ブランドの構築に繋がる。 また、町民、町内事業者を対象に人材育成・強化プログラムを実施することで、おもてなし等の向上など、観光客の受入体制整備に繋がるものと考えられる。
	○観光体験プログラムの作成・実証にあたっては、資材が不足していたことで、予定していた利用者がキャンセルをせざるをえない等の事例があったことから、過年度の課題を踏まえ、予めそのような事態が起きないように検討していく必要がある。	○観光体験プログラムを実施した講師等との意見交換会を随時実施し課題の把握を行うことで、ブラッシュアップまたは新たに作成する体験観光プログラムの質の向上が図られ、より魅力ある内容とできるようになると考えられる。
	○本町の観光拠点施設として、南の駅やえせが一部供用開始となったことを踏まえ、今後当該施設を拠点とした八重瀬町内の周遊に結びつく仕組み作りを行っていくことで、滞在型観光の推進をしていく必要がある。	○体験プログラムの窓口を町に一元化することで、観光客が体験プログラムを手軽に利用できるようになると考えられる。また、南の駅やえせに観光客が必ず立ち寄る仕組みを構築することで、そこから町内へ周遊させる取り組みへと繋げていくための結節点としての役割を施設が担うこととなると考えられる。
	今後の取り組み方針	
	○町民、町内事業者を対象に、観光客へのおもてなしの心の向上を図る人材育成・強化プログラムを実施するほか、観光客の増加により混乱が生じる等の懸念を感じている町民に対し、観光への不安を解消し理解・協力を促す観光意識向上プログラムを実施していくことで、住民と合意形成を図り、協働で取り組んでいく体制を構築する。これにより、観光客の受入体制の整備を図っていく。	
	○前年度までに引き続き観光体験プログラムの作成を行い、実証を行っていくことで、八重瀬町での滞在型・交流型観光の推進に向けた観光メニューの開発に取り組む。その際には、過年度に生じた課題等を把握し、事業者と共有を図ることで、類似の事例が生じない、あるいは代替手段を用意するなどの事前の取り組みに繋げていく。	
	○観光体験プログラムの申し込み窓口については、現状の各事業者への直接申し込みから、町または観光関連団体等による受付へと改善することで窓口を一元化し、観光客がプログラムの利活用をスムーズに行えるような体制を構築できないか検討する。また、そうした窓口としての役割を南の駅やえせで担えないかなど、当該施設を結節点として周遊観光を促進させていくための仕組みづくりに向けた、必要な取り組みの検討を行っていく。	

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>19,438</td><td>19,438</td><td>15,550</td><td>3,888</td><td>0</td></tr></table> 八重瀬町 19,438千円 委託料 19,438千円 エスビージャパン(株) (株)インタープラン沖縄 八重瀬町の知名度向上 住民の啓発・観光PR等 体験滞在型観光の仕組みづくり					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	19,438	19,438	15,550	3,888	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
19,438	19,438	15,550	3,888	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。 ○予算規模は積算資料や見積等に基づいて決定しており、適正な規模と考えている。 ○費目、使途については完了段階で検査を実施しており、目的に則し、必要な事業費を精算した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	八重瀬町							
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-②	八重瀬ブランド販路構築支援事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ			
担当部課名	観光振興課	事業実施 (予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成		
事業内容	八重瀬町の地域資源を活用した八重瀬ブランドの構築と拡張のための取り組みを支援する。 また、小規模事業者であるブランド参画事業者を支援し全体的な底上げを図るとともに、販路構築の支援を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	9,975	9,912	9,956	10,800	10,768	
		(b) 予算現額	9,975	9,912	9,956	10,800	10,768	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	9,975	9,912	9,956	10,800	10,768	
	B. 執行済額		9,134	9,912	9,770	10,768	10,751	
	うち交付金充当額		7,307	7,929	7,816	8,614	8,600	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		91.6%	100.0%	98.1%	99.7%	99.8%	
予算の状況の説明		八重瀬ブランドの販路拡大のため各種イベントやプロモーション、特産品の開発、参画事業者への専門家による指導助言、卸・流通事業者とのマッチングを通じた事業者の支援を行い、当初通り予算を適正に執行した。 不用額については入札残によるものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	新商品開発事業者の集中支援	目 標	(3社)	(2社)	()	()		
		実 績	2社	2社				
	販路構築に関する一連のワークショップの開催	目 標	()	(3回)	()	()		
		実 績		3回				
	ニーズ調査・PRを目的とした販路構築支援企画の実施	目 標	()	(3回)	()	()		
		実 績		4回				
達成状況説明	ワークショップに参加した事業者から2社(しらかわファーム、ハルハウス)を選定、専門家の支援を受けながら開発、パッケージデザイン、品質管理、流通側とのマッチング支援を行った。また県内2か所(わたしたショップ(沖縄ライカム・国際通り))、八重瀬町観光拠点施設)県外2か所(なみへい、博多わたした)において、町産品のニーズ調査・PRを目的としたテストマーケティングを実施した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	新商品の完成	目 標	()	(3品)	(2品)	(2品)	()	
		実 績		8品	3品	4品		
	販路構築に関する一連のワークショップ参画事業者数	目 標	()	()	()	(7社)	()	
		実 績				11社		
	販路構築支援企画における認知度向上(アンケート回答人数)	目 標	()	()	()	(100人)	()	
		実 績				135人		
	【参考指標】 新規及び改良した商品の販売額	目 標	()	()	()	(-)	()	
		実 績				22千円		
	【H30成果目標】 商談が新規成立した事業者数	目 標	()	()	()	()	2件以上	
実 績								
進捗状況説明	○10月～11月に開催したワークショップでは、専門家による事例紹介・商品づくり・マーケティング等、販路構築・拡大に係る一連のノウハウについて講義を実施した結果、11事業者が参加した。 ○参画事業者への集中支援の結果、しらかわファーム3品(手作りまるごとゼリー ドラゴンフルーツ他)、ハルハウス1品(からさんど～プレミアム)の計4品が新商品として完成した。なお完成・販売開始が1月末となったことから、29年度事業期間中の販売額は22,454円となっている。 ○町産品のニーズ調査・PRを目的として、次の取組を行うとともに、各取組において、来場者に対し八重瀬町・八重瀬町産品に関するアンケートを実施し、135人から回答を得ることが出来た。 ①10月～11月に東京都内のアンテナショップ・レストラン「なみへい」において、町産品を用いた期間限定メニューの提供並びに町産品の販売 ②県内及び福岡県のわたしたショップにおけるテストマーケティング(10月:博多わたした、12月:ライカム店・国際通り本店) ③2月に八重瀬町観光拠点施設(南の駅やえせ)において町産品並びに本年度新規開発商品のテストマーケティングを実施。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○平成29年4月に「観光拠点施設」が供用を開始したことから、今後は当該施設への事業者の出店・出品促進や、施設を活用した販路拡大・ブランド発信施策の実施が可能となった。 ○販路構築に向けたマーケティング及びプロモーションについては、29年度は県外飲食業者、拠点アンテナショップ、町内観光拠点施設の三種の場所においてプロモーションを実施し、来場者へのPRを行ってきたが、より有効な方法がないか、引き続き検討を行う必要がある。 ○現状のワークショップ及び八重瀬ブランドへの参画事業者の大部分が多角的な事業運営が困難な小規模事業者となっている。今後、八重瀬ブランドの構築を進めていくにあたっては、大きなブランドの枠の中で、多種多様な商品を取りそろえ、ターゲットに合わせたアプローチが可能となるようにしなければならないが、現状の参加事業者のみでは、限界が生じることが想定される。	○八重瀬町観光拠点施設を積極的に活用し、八重瀬町産品のPRを継続的に実施することで、定点販売を行う拠点が存在することの利点を最大減活かしていくことが可能となるとともに、八重瀬ブランドが浸透した場合においては、これを目当てに本町を訪れる交流人口の増が期待できる。 ○マスコミへの露出の増加などは引き続き目指しながら、ターゲットとなる地域の絞り込みを行うとともに、地方でも一定のニーズが見込まれる地域に向けた取組を実施することで、販路の拡大により直接的に繋げていくことが可能となる。 ○本事業並びに八重瀬町の産品に関心を持った町内外の団体・企業を巻き込むことで、ブランド内の商材の多様化を図ることが可能となり、「八重瀬ブランド」を発信することで、ブランドの構築を促進できると考えられる。
	今後の取り組み方針	
	○アンテナショップを兼ねたキッチンカー（カラベジ号）等を引き続き活用し、ブランドイメージの発信・プロモーションを実施するとともに、イベント等の機会を活用したプロモーションの実施や日常の出店・出品を促すなど、八重瀬町観光拠点施設（南の駅やえせ）を拠点として活用していく。 ○事業者自らによる取組を基本におきつつ、開発済の商品や既存の商品等について、専門家による指導助言を仰げるようにする環境を構築するとともに、ターゲットとなる地域などを含めた各地の商談会等への出展支援等を行うことで、販路拡大に向けて取り組んでいく事業者を支援する。 併せて、町として特産品コンテスト等への出展や、積極的なプレスリリースを実施することで、マスコミへの露出機会を増やし、「八重瀬のカラベジ」の知名度向上につなげていくことで、販路拡大を側面から支援していく。 ○「八重瀬の旬」「八重瀬カラベジ」に代表される八重瀬ブランドについて、事業者・団体に対し積極的な活用を呼びかけ、ブランドイメージの拡大を図るとともに、町外団体・教育機関等と町内事業者とのマッチングを通じ、新商品の共同開発・新規販路の開拓・PRを図ることで、八重瀬ブランドの商材多様化、発信力強化を図っていく。	

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>10,751</td><td>10,751</td><td>8,600</td><td>2,151</td><td>0</td></tr></table> 八重瀬町 10,751千円 委託料 10,751千円 エスビージャパン株式会社 10,751千円 ・販路構築ワークショップの開催 ・参画事業者の集中支援 ・県内外アンテナショップ、八重瀬町観光拠点施設におけるテストマーケティング及					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	10,751	10,751	8,600	2,151	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
10,751	10,751	8,600	2,151	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、業者見積もり等で決定しており、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											

市町村名	八重瀬町						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	八重瀬町観光プロモーション事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ	
担当部課名	観光振興課	事業実施(予定)年度	平成26～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開	
事業内容	八重瀬町の観光振興を推進することを目指して、必要な観光施策を構築し、観光プロモーションの企画運営管理、県内外への認知度向上に向けた積極的な情報発信及び発地への観光プロモーション等を行う。						
効果発現年度	□当年度 ■後年度(30年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,904	9,821	9,410	11,999	10,111
		(b) 予算現額	6,904	9,821	14,019	11,540	10,111
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	4,609	▲ 459	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計 (b+d)	6,904	9,821	14,019	11,540	10,111
	B. 執行済額		6,788	6,674	14,019	11,540	8,610
	うち交付金充当額		5,429	5,339	11,215	9,020	6,888
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		98.3%	68.0%	100.0%	100.0%	85.2%
予算の状況の説明		八重瀬町の観光PRを県外へ実施するため八重瀬PR隊として3回実施する予定であったが、八重瀬町観光拠点施設「南の駅やえせ」を中心とした集客プロモーションに優先して取り組むこととしたことから、県外プロモーションの回数を1回に減らした。これにより必要な旅費が減となったほか、入札残や消耗品数量の減などにより、1,501千円の不用が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
				28年度	29年度	30年度	31年度
	観光及び多言語観光パンフレット作成	目 標	(20,000部)	(20,000部)			
		実 績	36,000部	36,000部			
	観光プロモーションの実施	目 標	(2回)	(3回)			
		実 績	2回	6回			
達成状況説明	観光プロモーション支援員を2人配置し、やえせのシーちゃんを活用した効果的なプロモーションを展開するため、多種多様な観光プロモーション企画を6回実施できた。 日本人旅行者向け観光パンフレットの情報を最新の情報へと改定し、20,000部を作成した。併せてインバウンド観光パンフレット(4か国語対応)を16,000部作成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況			基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	観光パンフレットの設置	目 標	()	(30箇所)	(30箇所)	()	()
		実 績		35箇所	45箇所		
	【H30成果目標】 主要観光施設の入込観光客数	目 標	()	()	()	()	210,000人以上
		実 績					
	進捗状況説明	八重瀬町の観光情報を満載した観光パンフレットを合計36,000部作成し、町から依頼して設置したほか、要望等に応じて配布するなどの対応を行い、県内の観光施設及び事業所等45か所に設置することができた。 また観光プロモーション支援員の配置により、やえせのシーちゃんを活用したイベント活動や、支援員から企画提案されたプロモーション活動が実施され、八重瀬町の知名度向上が推進された。 このほか、観光拠点施設「南の駅やえせ」の来場者数は1年目のため前年度等と比較はできないがおおよそ210,000人の来場者数があるなど、八重瀬町の認知度は従前に比べて向上しているものと考えられる。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○八重瀬町の観光振興を推進していくにあたり、「南の駅やえせ」を拠点として活用することで、観光客の本町における周遊へとつなげていく必要がある。	○南の駅やえせを拠点に周辺を周遊、体験滞在するための仕組みづくりを行うことで、施設を自然と利用させる形とすることができ、観光客に対してその他の本町の観光資源等の周知させることに繋げることが可能となると考えられる。
	○八重瀬町の観光地としての魅力を高めるためには、継続してパンフレットの配布などの広報業務を実施していく必要があるが、併せて観光資源のプログラム化や、近隣地域と連携した取組、本町を訪れる観光客のニーズに合わせたプロモーションを実施していく必要がある。	○観光プロモーション支援員の質の向上と観光プログラムの充実を図ることや、PRを実施していくことで八重瀬観光ブランドの構築を一過性のものに終わらさないようにすることができると考えられる。
	○住民を通じて八重瀬町の魅力を対外的に発信していけるよう、町内の観光資源の認知度を町民の中で向上させていく必要がある。	○観光資源等の本町の魅力といえる部分について住民へ普及することで、口コミ等による宣伝効果を期待できるほか、民泊等における受け入れ体制の強化につながると考えられる。
今後の取り組み方針		
○地域の周遊や体験活動の受付等を拠点施設に置くなど、様々な方策を検討し、南の駅やえせを拠点として、周辺を周遊・体験滞在観光する流れを作るための仕組みづくりを行う。		
○必要な研修を行うとともに、観光プログラムの企画立案等の作業を通して、観光プロモーション支援員の質の向上を図る。また、観光プログラムについて、実際に利用した方の意見等を踏まえながら必要な改善点を洗い出し、観光メニューとしてのブラッシュアップを図るとともに、体験観光の風景などを含めて、本町の観光資源についてSNS等で発信することを検討するほか、民俗芸能団体などのイベントへの出演などをとおして、八重瀬観光ブランドとしてのPRを引き続き実施していくことで、継続的な観光誘客に繋げていく。		
○SNSの発信や広報誌の活用、体験型観光プログラムの開発過程等を通して、住民にも地域の観光資源等について理解してもらう機会を創出し、八重瀬町の魅力をPRLしてもらえるよう、普及啓発に取り組んでいく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		8,610	8,610	6,888
				市町村負担金
				1,722
				交付対象外経費
				0
八重瀬町 8,610 千円	報酬 4,128 千円	プロモーション支援員 2名	観光プロモーション支援員報酬	
	共済費 527 千円	プロモーション支援員共済費 2名	観光プロモーション支援員共済費	
	旅費 320 千円	八重瀬町観光プロモーション 5名 （東京都・埼玉県）	八重瀬町観光プロモーションによる旅費	
	需用費 3,038 千円	消耗品費及び印刷製本費等		
	役務費 167 千円	郵送代等		
	備品購入費 430 千円	wood shop GRAIN 102,600 円	シンボルモニュメント	
		沖縄輪業（株） 327,184 円	電動自転車（3台）	
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○支出先については、本事業で配置した支援員に係る支出及び地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○不用額については、県外プロモーションの旅費（3回→1回）の減や入札等残と消耗品数量減によるもので事業内容の予算規模は適正である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について精査し執行しており適正である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	八重瀬町							
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-④	YAESE 結 フェスタ事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ		
担当部課名	観光振興課	事業実施(予定)年度	平成29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開		
事業内容	八重瀬町の観光地認知度向上を図るため町特有の地域資源を活用したイベントを行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 ☒ 補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	25,000					
		(b)予算現額	25,000					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	0					
		A. 計(b+d)	25,000					
	B. 執行済額		24,919					
	うち交付金充当額		19,935					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		99.7%					
予算の状況の説明		「YAESE 結 フェスタ実行委員会」補助金について適切に補助金を執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	「YAESE 結 フェスタ」の開催支援	目 標	(支援実施)	()	()	()		
		実 績	支援実施					
達成状況説明	「YAESE 結 フェスタ」の開催に向けて実行委員会へ補助を行い、11月4日と5日と2日間、イベントを開催することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値(年度)	29年度	30年度	29年度	目標値(年度)
	「YAESE 結 フェスタ」の来場者数	目 標	()	(32,000)	()	()	()	
		実 績		35,000				
	進捗状況説明	各イベントを運営するため実行委員会への補助を行い、補助金は企画に対する経費等に充てられた。毎年10月にやっている青年エイサー祭りについて、本イベントにおける演目の一つとすることで集客を図るとともに、外国人観光客向けにSNSによる情報発信や多言語対応スタッフの確保、案内表示の多言語化などに取り組むことで、来場者の満足度向上に努めた。結果として、外国人の来場者も多く見られ、イベントの来場者数はシャトルバス利用状況・駐車場駐車可能台数・目測カウント等を元にした測定を行ったところ、来場者は成果目標を上回る実績となった。						

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	今回の開催に際しては成果目標を達成できたが、引き続き誘客イベントとして充実した取組を実施するため、次回の33年度の開催に際しては、以下の点に留意して検討・取組を行っていく必要がある。 ○外国人の来場が引き続き増加傾向にあるため、外国語によるSNSを活用した情報発信などをより充実させ、滞在時間・消費額の増加を図る必要がある。 ○旅行社等とのタイアップによるプロモーションで、来場者の増を図るほか、地域活性化を促すよう、八重瀬町内の事業者とのタイアップ企画など、地域全体で受け入れる仕組み創りの構築していく必要がある。 ○十分な自主財源を確保し、継続可能な体制の構築を行っていく必要がある。	○多言語対応の条件整備や来場者が訪れやすい交通アクセスの案内や看板等の整備を行うほか、外国人向けの取組を行うことで、増加する外国人観光客への誘客効果を得ることが可能となる。 ○町内事業者と連携した企画の実施など、八重瀬町ならではの企画を検討し、アピールすることで、旅行社とのタイアップなどに繋げることが可能となる。 ○イベントの趣旨・目的について理解を求めるほか、協賛者へどのようなフィードバックがなされることが魅力的なのかを検討することで、企業協賛金の確保に資することができると考えられる。
今後の取り組み方針		
○外国人向けの対応として、引き続き、SNSを活用した情報発信などを行うほか、多言語対応可能なイベントスタッフの確保、案内表示等を実施するとともに、外国人以外の観光客も含めての対応として、通訳ボランティアやガイドの配置、浴衣の着付け、フェイスペイント等の企画についても実施を検討する。 ○企業とタイアップしたPRを行うことにより、地域内外に対して魅力あるイベントとするために、町内の事業者との連携の上で、誘客につながるような八重瀬ならではの独創的な企画を立案・運営していく。 ○企業協賛金について、イベントの趣旨・目的について理解を求め、幅広く協賛を募るため、協賛された方々への魅力的なフィードバックを図るためにはどのような内容が好ましいか、事前に聞き取り調査を行う等により検討を実施していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>24,919</td><td>24,919</td><td>19,935</td><td>4,984</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	24,919	24,919	19,935	4,984	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
24,919	24,919	19,935	4,984	0										
八重瀬町 24,919千円 補助金 24,919千円 YAESE結フェスタ実行委員会 24,919千円 YAESE 結 フェスタ 企画運営費、広告宣伝費、会場設営費、 イベント費、交通防犯対策費														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○町の補助金関係の例規・要綱に従い選定されており妥当である。 ○予算規模については、見積書等を勘案しより安価で効果的な予算使途に限定しているため適正である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について精査し執行しており適正である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-①	八重瀬町地産地消フェア事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ		
				流通・販売・加工対策の強化				
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成26年～30年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	イベント開催を通じて地場産業の情報発信や展示販売等を実施し、本町にて拠点産地に指定されている農作物等や畜産物・水産物及びそれらを使用した加工品等のPRを行うことで、農林水産業の振興を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,000	4,000	4,000	4,000		
		(b) 予算現額	4,000	4,000	4,000	4,000		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0		
		(d) 繰越額	0	0	0	0		
		A. 計 (b+d)	4,000	4,000	4,000	4,000		
	B. 執行済額		3,996	3,990	3,999	3,999		
	うち交付金充当額		3,196	3,912	3,199	3,199		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		99.9%	99.8%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		予算は、事業内容に即した適正額であったため、事業計画どおりの執行となっている。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	地産地消フェア開催支援(2箇所)		目 標	(開催支援)	(開催支援 (2箇所))	(開催支援 (2箇所))	(開催支援 (2箇所))	
			実 績	支援実施	支援実施 (2箇所)	支援実施 (2箇所)	支援実施 (2箇所)	
達成 状況 説明	イベント開催を支援することで、会場整備及びイベント開催(伝統芸能、黒糖作り等)、チラシ作成等を行うことで、まつりの内容を充実し、このイベントを通じて展示販売を実施することにて本町の農作物等の周知が図られた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	地産地消まつり来場者数:2,500～3,000人		目 標	()	(2000)	(2000)	(2500～ 3000)	()
			実 績		3900	3700	6600	
	出店事業者10店		目 標	()	()	()	(10)	()
			実 績				10	
	進捗 状況 説明	・地場産業(農作物、畜産、水産等)等のPRを図るため、地場産業を活用したイベント「八重瀬町地産地消まつり」を開催した。今年度、開催場所を駐車場が近くにある場所に変更したことにより、約6,600人(1回目:4,000人、2回目:2,600人)が訪れた。また天候にも恵まれ、昨年度の来場者数から大幅に増となった。まつりに訪れた方は町内だけでなく、町外の方も見られた。 ・事業者等に呼びかけを行い出店事業者の目標を達することができた。八重瀬町の魅力ある彩り鮮やかな地場産物を効果的に発信することで、本町の農林水産業の活性化に繋がった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○予想以上の人手となったことから、駐車場の不足が生じた。 ○来場者を増やし地場産品のPRを推進していくにあたっては、単に出店事業者を増やすのでは効果が薄いと考えられる。	○周辺との調整を行い臨時駐車場を確保することで、駐車場不足の解消につながるものと考えられる。 ○様々な商品を出品できるように関係団体や個人事業者等に呼びかけを行うことで、出品される品物を増やすことにつなげることが、来場者の増加に繋がり、地場産品のPRに繋がっていくものと考えられる。
今後の取り組み方針		
○予定する会場近隣の事業者や地権者等と調整し、イベント実施日において臨時駐車場を設けることができるよう取り組んでいくことで、来場者数の維持・増加に繋げていく。 ○魅力的な商品を出品できるように新たにまつりに参加してもらえる町内の団体や個人に呼びかけするように努めるとともに、出品が決まった際には、SNSを使った情報発信を行い、町内だけでなく町外にも広く伝わるように取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
3,999	3,999	3,199	800	0

八重瀬町
3,999千円

→

補助金
3,999千円

→

八重瀬町地産地消まつり実行委員会
3,999千円

(補助内容)

会場設営費(テント、ステージ等)

広報費(チラシ、横断幕等)

交通整理費、イベント費(舞台出演者)

資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○町の補助金関係の例規・要綱に従い選定されており妥当である。 ○予算の規模は、事業内容に即した適正額であったため、事業計画通りの執行となっている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について精査し執行しており適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	八重瀬町							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4－②	八重瀬町「農と緑」地域活性化事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(7)			
					八重瀬町「農と緑」地域活性化 推進事業			
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成26～29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(6)			
事業内容	地域農業の活性化に向けて、体験農場や農業塾・教室を開き農業体験を通じて農業後継者や新規就農者の育成を行うことで、新規就農者の創出を図るため、八重瀬町種苗センターを整備した。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(30年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)			26年度	27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	6,300	59,438	－		139,442	
		(b) 予算現額	6,300	59,438	－		131,220	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0		▲ 8,222	
		(d) 繰越額	－	－	42,227		0	
		A. 計 (b+d)	6,300	59,438	42,227		131,220	
	B. 執行済額		5,940	16,223	42,173		131,220	
	うち交付金充当額		4,752	12,978	33,738		104,976	
	次年度繰越額		0	42,227	0		0	
	執行率 (%) (B/A)		94.3%	27.3%	99.9%		100.0%	
	予算の状況の説明		工事請負費及び施工監理委託料に係る入札に伴い、入札残が生じたため8,222千円は補正で減額した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	建築物・造成工事の実施	目 標	(工事実施)	()	()	()		
		実 績	工事実施					
達成 状況 説明	27年度繰越予算により28年度において用地の購入等が実施できたことから、29年度において工事の実施を行うことができた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (30年度)
	建築物・造成工事の完了	目 標	()	(完了)	()	()	()	
		実 績		完了				
	【H30成果目標】 新規就農者数	目 標	()	()	()	()	13人以上	
		実 績						
	【H30成果目標】 施設年間利用者数・体験農場年間利用者 数	目 標	()	()	()	()	4600人	
		実 績						
	進捗 状況 説明	建築物について設計通りに完了することができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○施設の完成後においては、本町の農業振興に向け、新規就農者を育成するための利活用を進めることとしているため、施設利用を要望する方を広く募集していく必要がある。 ○新規就農者においては、異業種からの参入が多く、初めて直面する事態等が多いことから就農を途中で諦める事例も生じているため、これを防ぎ、新規就農者が定着していきやすい環境を構築する必要がある。	○一般の目に触れる広報媒体や、地域の会合等での広報を通じて広く募集をかけることで、新規就農を希望する方の掘り起こしに繋がっていくものと考えられる。 ○研修に際して、先輩にあたる農家等の経験を共有するなどの取り組みを行うことで、新規就農時に必要な心構えや準備が可能となる環境を構築することが可能となると考えられる。
今後の取り組み方針		
○新規就農を希望する者の掘り起こしに向けて、ホームページ等の広報媒体を通じて、応募者を募っていく。 ○研修の中で、新規就農した農業者等、ロールモデルとなる方の体験談や、新規就農に際して生じた問題点等について講演を行ってもらうことで、就農に向けて、或いは就農後に必要な取り組み等を事前に研修受講者が把握できるように努めることで、就農のミスマッチを防ぐよう努めていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>131,220</td><td>131,220</td><td>104,976</td><td>26,244</td><td>0</td></tr></table> 八重瀬町 131,220千円 委託料 4,320千円 設計工房玄 4,320千円 〔種苗センター、管理棟施工 監理委託業務〕 工事請負費 126,900千円 〔株〕大進建設・〔有〕丸和共同 企業体 126,900千円 〔種苗センター、管理棟新築工 事〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	131,220	131,220	104,976	26,244	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
131,220	131,220	104,976	26,244	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4－③	八重瀬町和牛改良支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ウ		
				農林水産物の安全、安心の確立				
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成26～30年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－Ⅰ－(6)		
事業内容	農家の経営安定化、質の高い食用牛への改良を進めるため、優良母牛導入促進に向けて支援を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	12,000	12,000	12,000	12,000		
		(b) 予算現額	12,000	12,000	12,000	12,000		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0		
		(d) 繰越額	－	－	－	－		
		A. 計 (b+d)	12,000	12,000	12,000	12,000		
	B. 執行済額		11,902	11,598	11,734	11,787		
	うち交付金充当額		9,521	9,278	9,387	9,429		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		99.2%	96.7%	97.8%	98.2%		
	予算の状況の説明		予算は八重瀬町和牛組合への補助金である。 不用額213,000円はセリにて雌牛を導入した際の残額である。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	優良母牛導入頭数:30頭		目 標	(30頭)	(30頭)	(30頭)	(30頭)	
			実 績	31頭	32頭	32頭	32頭	
達成 状況 説明	平成29年度に30頭導入の目標に対し、実績で32頭を導入したので活動目標を達成できた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	優良母牛導入率:80%		目 標	()	(40%)	(60%)	(80%)	()
			実 績		42%	63%	84%	
	【H30成果目標】 導入した優良母牛から生まれた子牛とそう でない子牛との価格差の割合		目 標	()	()	()	()	112%以上
			実 績					
	進捗 状況 説明	平成26～30年度で優良母牛150頭導入(100%)を行うが、平成26年度に31頭、27年度に32頭、28年度に32頭、29年度に32頭導入できた。成果目標の導入率80%に対し、実績では導入率84%を達成できた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・現状のところ、導入計画は順調に達成されてきているが、優良母牛を貸し付けた農家において、導入した雌牛の受精状況や、生まれた仔牛のその後の状況を的確に把握することで、事業効果を把握し、適切な管理を引き続き依頼していく必要がある。	・引き続き毎月の聞き取り調査を実施するとともに、生産報告などを確認していくことで、受胎率の低い雌牛等の確認や飼養状況の把握に繋がれることから、適切な飼養のあり方を指導していける体制の構築に繋がる。
今後の取り組み方針		
・導入した雌牛の生産報告を毎年度末を目安に提出してもらう取り組みを継続することで、生産報告（実施状況報告）によって受胎率が低い雌牛については、優良母牛貸付農家に対して定期的に獣医師による受診を促し、受胎率の向上を目指す。併せて、計画に沿って引き続き県内外のセリ市場から優良母牛を導入するとともに、関係機関と連携して適切な飼養に係る指導を行っていくことで、本県肉用牛のブランド化に向けた取り組みを、町全体としても進めていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>11,787</td><td>11,787</td><td>9,429</td><td>2,358</td><td>0</td></tr></table> 八重瀬町 11,787千円 補助金 11,787千円 八重瀬町和牛組合 11,787千円 委託料 11,787千円 沖縄県農業協同組合 11,787千円 （雌牛導入委託業務）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	11,787	11,787	9,429	2,358	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
11,787	11,787	9,429	2,358	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○町の補助金関係の例規・要綱に従い選定されており妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり、適正な規模であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者には上限を超えた部分に関しては負担があり、他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。											

市町村名	八重瀬町							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4－④	八重瀬町乳用牛改良支援事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ウ			
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成29～33年度		農林水産物の安全、安心の確立			
				沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－Ⅰ－(6)			
事業内容	農家の経営安定化、乳用牛の改良強化を図るため、優良乳用牛導入促進に向けて支援を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	12,000					
		(b) 予算現額	12,000					
		(c) 増減額 (b-a)	0					
		(d) 繰越額	－					
		A. 計 (b+d)	12,000					
	B. 執行済額		12,000					
	うち交付金充当額		9,600					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		予算は沖縄県酪農農業協同組合への委託費用である。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	優良乳用牛導入の支援		目 標	(支 援)	()	()	()	
			実 績	支 援				
達成 状 況 説 明	優良乳用牛の導入を支援し、平成29年度に30頭導入の目標に対し、実績で30頭導入することができた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (年度)
	乳用牛貸付頭数:30頭/年		目 標	()	(30頭)	()	()	()
			実 績		30頭			
	【H30成果目標】 生産乳量		目 標	()	()	()	()	(394,700k g以上)
			実 績					
	【H30成果目標】 乳質(脂肪率)		目 標	()	()	()	()	(4.12%以 上)
			実 績					
	進 捗 状 況 説 明	平成29～33年度で優良乳用牛150頭導入(100%)を行う計画であるが、平成29年度に30頭の導入を達成でき、成果目標の貸付頭数30頭に対し、実績においても30頭となった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	小規模経営の酪農家が多いことから、資料価格の高騰による影響で乳用牛n更新が進められず、乳質の改善が進んでいない状況にあることから、本事業により優良乳用牛の導入を進めていっているところである。 乳用牛の質の向上、高齢化の抑制により、生産される乳質の向上や、生産乳量の増加が見込まれるが、客観的なデータの取りまとめが不十分となっている。	農家が町から借り受けた優良乳用牛の生産乳量等のデータの収集や、衛生管理等を関係機関と連携しながら収集していくことで、事業の成果検証やより乳質等を向上させるための農家指導に役立てていくことが可能となる。
今後の取り組み方針		
引き続き乳用牛繁殖基盤の改良強化を図るため優良乳用牛の導入を行う中で、農家や関係機関と連携して、導入の成果を検証できるデータの収集に努める。 また、質の向上が図られているかどうかを適宜検証し、必要に応じて農家への指導等を県と連携して実施していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>12,000</td><td>12,000</td><td>9,600</td><td>2,400</td><td>0</td></tr></table> 八重瀬町 12,000千円 → 委託料 12,000千円 → 沖縄県酪農農業 協同組合 12,000千円 〔乳用牛導入委託業務〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,000	12,000	9,600	2,400	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,000	12,000	9,600	2,400	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。 ○予算の規模は、事業内容に即した適正額であった。 ○受益者には上限を超えた部分に関しては負担があり、他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、支出等に関する書類により精査確認し、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5－①	避難誘導案内標識設置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(4)－(イ)			
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成28～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化			
事業内容	住民や本町を訪れる観光客等の安心・安全を確保するため、八重瀬町に適した避難誘導案内標識を設置する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(年度)							
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,140	31,863				
		(b) 予算現額	13,014	31,863				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,126	0				
		(d) 繰越額	—	—				
		A. 計 (b+d)	13,014	31,863				
	B. 執行済額		13,014	25,128				
	うち交付金充当額		10,411	20,101				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	78.9%				
予算の状況の説明		工事発注の際に入札を実施したことによる入札残等に伴い、6,735千円の執行残が生じたものの、当初予定していた取組については概ね執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	避難誘導標識の設置	目標	(設置)	()	()	()		
		実績	設置					
	避難場所標識の設置	目標	(設置)	()	()	()		
		実績	設置					
	達成状況説明	目標通り避難誘導標識及び避難場所標識の設置に取り組んだ。						
	成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値(年度)	29年度	30年度	31年度
避難誘導標識設置完了:76箇所		目標	()	(76箇所)	()	()	()	
		実績		75箇所				
避難場所標識設置完了:22箇所		目標	()	(22箇所)	()	()	()	
		実績		22箇所				
【H30年度成果目標】 (地域避難訓練時の避難者アンケート調査による、)避難標識の認識度		目標	()	()	()	()	80%以上	
		実績						
進捗状況説明		・避難誘導標識については、当初目標では標識76基設置することとなっていたが、設置工事にあたって再検討した際、避難経路の途中で大雨時に一部冠水する箇所があるため、当該箇所での標識(1基)設置は難しいと判断し75基の設置に留まった。 ・避難場所標識については、当初計画通り標識22基の設置を行うことができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本事業については29年度で終了となる。本事業の実施にあたっては、避難標識の設置に際して地下埋設物の有無等についての関係機関への調査や、標識設置に際しての隣接地権者等への説明対応に不測の時間を要し、設置工事のための工期が想定よりも短くなってしまう事態が生じていた。 ・今後の課題として、本事業で設置した標識等の効果を促進する取組を進めていく必要がある。	・地下埋設物等の有無に係る調査については工事着手の段階ではなく実施設計の段階で検討すること、隣接地権者の説明にあたっては事業目的及び内容を十分に説明することで地権者からの理解が得やすくなると考えられることから、工事着手前にこうした取組を進めておくことが、設置工事等に係る工期の確保に繋がると考えられる。 ・住民が避難標識等の存在を把握しやすい環境を整えることで、災害時には住民から観光客等への情報提供も期待できるため、当面は住民への情報提供を行っていくことが有用であると考えられる。
今後の取り組み方針		
・今後類似の事業を実施するにあたっては、道路管理者等へ実施設計段階から地下埋設物等の有無について照会するとともに、その情報を基に地下埋設物の占有者と標識位置の調整を行い、避難標識の設定位置を確認するなどの対応を行っていく。また、地権者等への対応として、事業目的の理解を促す資料を予め用意しておくなど、可能な限り事前の説明対応等を行うようにする。 ・災害時に住民や観光客等が徒歩で避難場所に到達できるようにするため、町広報誌にて避難誘導標識の設置等について住民に対し広く周知するとともに、町で避難訓練を行う際において、避難標識等を併せて活用する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>25,128</td><td>25,128</td><td>20,101</td><td>5,027</td><td>0</td></tr></table> 八重瀬町 25,128千円 工事請負費 25,128千円 オパス株式会社 25,128千円 避難誘導案内標識設置工事					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	25,128	25,128	20,101	5,027	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
25,128	25,128	20,101	5,027	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。 ○予算においては国の積算基準、または複数業者見積を参考として積算しており、予算規模は適正であった。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、支出等に関する書類により精査確認し、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	八重瀬町							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6－①	子育て世代ゆいま～る支援事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ				
				文化活動を支える基盤の形成				
担当部課名	児童家庭課	事業実施 (予定)年度	平成27年度～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-4			
事業内容	・各学童クラブの会計・事務の補助を行い、学童クラブ支援員が保育業務の向上を図れる環境を整える。各学童クラブの施設情報、空き状況の情報を管理し、窓口での情報提供体制を整える。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☐ 後年度(年度)							
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	1,582	2,106	1,793			
		(b) 予算現額	1,369	1,661	1,793			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 213	▲ 445	0			
		(d) 繰越額	0	0	0			
		A. 計 (b+d)	1,369	1,661	1,793			
	B. 執行済額		1,340	1,625	1,712			
	うち交付金充当額		1,071	1,300	1,369			
	次年度繰越額		0	0	0			
	執行率 (%) (B/A)		97.9%	97.8%	95.5%			
予算の状況の説明		支援員として賃金職員1名を雇用し、計画どおり執行したものの、出勤実績等に基づく支払いの結果、81千円の執行残が生じた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	各児童クラブの会計、事務管理の支援及び施設情報、空き状況の情報管理支援員の配置 1人	目 標	(1人)	(1人)	()	()		
		実 績	1人	1人				
達成状況説明	・支援員1人を配置し、学童クラブの会計、事務支援や学童クラブの施設環境、利用する子ども達の状況を把握できた。 ・学童クラブの空き状況を把握し、住民に案内することができた。 ・定例会行い、クラブの運営状況の確認やクラブ間の情報交換を促すことができた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (年度)
	・児童クラブの会計・事務管理の支援	目 標	()	(100件)	()	()	()	
		実 績		120				
	・各学童クラブの施設情報・空き状況の情報及び窓口での情報提供	目 標	()	(200件)	()	()	()	
		実 績		240				
	進捗状況説明	支援員が会計や事務の支援を行い、毎月の定例会にて情報交換等を行うことにより、指導員の保育の向上を図ることができた。また、定例会や各学童クラブと頻りに連絡を取り合うことで、窓口にて空き状況やクラブの状況をスムーズに住民に案内することができた。この結果、児童クラブの会計・事務管理の支援は120件、窓口での情報提供は240件となった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・クラブで作成すべき書類の整備や会計の処理を統一するために、支援員と税理士とで取り組み、ある程度まとまってきた。しかし、個人で運営される「放課後児童クラブ」において、その有り方や、クラブ運営の基本についての理解をより促していくための新たな支援が必要である。 ・会計処理等については引き続き指導を行い、事務員の負担軽減を図りつつ、改善に取り組んでいく必要がある。	・個人経営状態にある児童クラブにおいて、クラブ運営に必要な事項の整備、運営の質向上に係る支援を行うことで、運営体制の改善に繋がるものと考えられる。 ・クラブが委託している税理士事務所と連携しつつ、会計ソフト導入を促していくことで、会計処理を適切に行えるようになるほか、事務員の負担軽減に繋がるものと考えられる。
今後の取り組み方針		
・各クラブについて職員で定期的に巡回を行い、クラブが実施する利用者アンケート等と併せて必要な事項を把握することで、クラブの運営内容や保育の質の向上について、自己評価及び改善していけるように指導を実施していく。また、こうした活動を通してクラブの空き情報等を把握し、これまでと同様に情報提供を実施していく。 ・各クラブが会計処理や事務をスムーズに行えるよう、会計ソフトの導入を促し、各クラブの会計処理の適切化に向けた指導について、クラブが委託する税理士と協働して取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>1,712</td><td>1,712</td><td>1,370</td><td>342</td><td>0</td></tr></table> 八重瀬町 1,712千円 賃金 1,505千円 支援員1名 1,505千円 共済費 207千円 支援員1名 207千円 (社会保険、厚生年金、児童手当拠出金)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,712	1,712	1,370	342	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,712	1,712	1,370	342	0										
資金使途の流れ、点検・評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、本事業で配置した支援員に係る支出となっており、妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算は必要人数に応じて積算されており、適正な規模であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類等により確認し、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	7-①	「夢・未来」スポーツレベルアップ事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ				
担当部課名	スポーツ振興課	事業実施 （予定）年度	H27～H29	沖縄振興基本方針 該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進			
事業内容	本町の児童生徒へトップアスリートによるクリニックの開催、指導者への研修会・講習会を開催する。また児童生徒がスポーツ活動において県代表として、九州大会や全国大会へ派遣される際の、旅費の支援を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,474	3,075	3,427			
		(b) 予算現額	5,153	5,358	4,427			
		(c) 増減額 (b-a)	1,679	2,283	1,000			
		(d) 繰越額	—	—	—			
		A. 計 (b+d)	5,153	5,358	4,427			
	B. 執行済額		4,835	3,929	4,365			
	うち交付金充当額		3,868	3,143	3,492			
	次年度繰越額		0	0	0			
	執行率（％）(B/A)		93.8%	73.3%	98.6%			
予算の状況の説明		児童生徒の派遣に係る支援件数が見込よりも増となったことから、1,000千円を増額補正して対応した。 講師依頼人数減に伴い、当初見込よりも謝礼金及び旅費が減となったことから、62千円の執行残が生じた。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				27年度	28年度	29年度	30年度	
	ベースボールクリニックの開催	目 標	()	()	(開催)			
		実 績			開催			
	児童生徒の県外派遣の支援	目 標	(助成)	(助成)	(支援)			
		実 績	助成	助成	支援			
	達成 状況 説明	トップアスリートによるクリニックの開催については、国内プロ野球球団読売ジャイアンツのOB選手によるベースボールクリニックを、8月12日午前の部は小学生、午後の部は中学生を対象に開催した。午前は105名、午後は19名、合計124名の参加者がいた。 クリニック当日は全体でスローイングやグラブさばき等の基礎的の指導。投手、野手毎に会場を分けてバッティングやピッチング等の詳細な部分を指導して頂いた。 児童生徒の県外派遣の支援は83件の支援を実施した。						
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （30年度）
	ベースボールクリニック：終了後アンケートにおいて、事業目的の理解度60％	目 標	()	(60%)	()	()	()	
		実 績		92%				
	児童生徒の派遣の支援件数	目 標	()	(50件)	()	()	()	
		実 績		83件				
	【H30年度成果目標】 スポーツ教室へ参加した児童生徒の保護者へのアンケートで、児童生徒のスポーツへの意識が更に高まったか	目 標	()	()	()	()	80%以上	
		実 績						
	【H30年度成果目標】 派遣された児童生徒の保護者へのアンケートで、児童生徒が広い視野を持てたか	目 標	()	()	()	()	80%以上	
		実 績						
	進捗 状況 説明	クリニック参加者を対象に、クリニック終了後のアンケートを実施したところ、今後の練習や試合にクリニックで習得したことを活かしていきたい等の本クリニックに対し肯定的な意見が全体の92%を占めており、回答内容を精査した結果も事業内容を十分に理解している回答が92%となったことから、成果目標は達成となった。トップアスリートを招致して実施することは、子どもたちへの指導効果も高く、将来目指すべき姿のモデルとしての要素が大きいことから、その後の練習への姿勢がより向上心をもったものになるなどの評価をいただくなど効果の高さが窺える。今後もトップアスリートの招致を継続していくことで、本町のスポーツ人材の育成に資することができるようになると思われる。 児童生徒の県外派遣費助成については、団体9件、個人74件の支援を行い、成果目標の50件を上回る支援を実施することができた。 町内の小中学生が県外大会へ助成を受けて参加し他都道府県のレベルの高い選手と対戦することにより普段の練習や県内大会では得ることができない技術や経験習得に寄与することができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・どちらの取り組みについても、現状は参加児童・生徒の意見等が確認の基盤となっていることから、第三者の視点による事業効果等の把握において、課題が残っている。	・児童生徒の保護者に対しても当事業実施前後でスポーツに対する意識向上があったかどうか、また県外派遣前後でどのような変化があったかなどについてアンケートを行い、事業効果の度合いを検証することで、事業効果の更なる向上を図る事が可能となると考えられる。
今後の取り組み方針		
・平成30年度は卓球クリニック・バドミントンクリニックの開催を予定しているほか、児童生徒の県外派遣の支援を継続する予定であるが、ともに参加者及び支援対象者の保護者へアンケートを実施することで、当該児童生徒を保護者の視点から客観的に確認していただき、本事業実施によってどのような変化が生じたかを検証する事が可能となるよう取り組む。 また、引き続き参加者の意見も把握するため、クリニック開催について事業目的のさらに詳細な理解度把握のためアンケート内容を精査するとともに、自由記述による意見の項目とは別に選択式の項目を追加し、参加者における事業目的の詳細な理解度が確認できるようなアンケートを作成する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>4,365</td><td>4,365</td><td>3,492</td><td>873</td><td>0</td></tr></table> 八重瀬町 4,365千円 旅費 176千円 講師1 88千円 講師2 88千円 報償費 200千円 講師1 100千円 講師2 100千円 消耗品費 27千円 横断幕 3枚×9千円 補助金 3,962千円 町内各種団体及び個人 3,962千円 県外派遣費 団体 9 件 個人 74 件 計 83 件					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,365	4,365	3,492	873	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,365	4,365	3,492	873	0										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初予定していた取組および年度内の見込の修正を踏まえた予算規模であり、適正であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○要綱に基づき受益者負担分を負担していただいており、受益者との負担関係は妥当であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、支出等に関する書類により精査確認し、適正であった。											

市町村名	八重瀬町						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8－①	運動公園省エネ化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア		
担当部課名	スポーツ振興課	事業実施（予定）年度	平成28～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地球温暖化防止対策の推進		
					Ⅲ－10－(1)		
事業内容	環境保全のため、運動施設に環境負荷の少ないLED照明を整備し、二酸化炭素排出量の抑制を図る						
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	32,000	28,821			
		(b) 予算現額	23,157	28,821			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 8,843	0			
		(d) 繰越額	－				
		A. 計 (b+d)	23,157	28,821			
	B. 執行済額		22,949	18,272			
	うち交付金充当額		18,359	14,618			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率（％）(B/A)		99.1%	63.4%			
予算の状況の説明		工事発注の際に工事費を精査を行った結果として概算工事費積算とで差が生じたこと、入札を実施したことによる入札残が生じたことから、10,549千円の不用額が発生した。					
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	LED照明の設置 （具志頭社会体育館）	目 標	（ 設置 ）	（ 設置 ）	（ ）	（ ）	
		実 績	設置	設置			
達成状況説明	具志頭社会体育館のLED照明取替の設置を、実施において委託設計業務から工事監理業務及びLED照明取替工事までを行った。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値（ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値（ 年度）
	具志頭社会体育館の二酸化炭素排出削減量 2.6t	目 標	（ ）	（ 2.6t ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		2.8t			
	進捗状況説明	成果目標および実績数値のCO2排出量については、環境省が公表している「電気事業者ごとのCO2排出係数等」を用いて、「年間消費電力量(W)×CO2排出係数(沖縄電力)=CO2排出量」算出を行った。 体育館のLED照明取替により、成果目標の二酸化炭素削減量(約2. 6t/月)削減に対し、平成29年度既設照明排出量(H29. 4月～H30. 2月)実績数値約5. 4t/月に対し、LED取替後排出量(H30. 3)実績数値約2. 6t/月で約2. 8tの二酸化炭素削減を実施することが出来たことから、成果目標を達成できた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本町においては、「第二次八重瀬町役場地球温暖化対策実行計画」に基づき、運動公園の照明設備をLED化することにより、CO2の削減に取り組んでおり、本町の地球温暖化対策にも繋げるため、継続的にLED化を推進していくこととしている。 ・本町の地球温暖化対策の取り組みについて、今後観光客、地元住民への周知をどのように行っていくか、検討していく必要がある。 ・LED 照明の設計については、様々な種類のLED照明器具が開発されてきており、技術革新が目覚ましいため、短期間で器具性能や価格が大きく変動する。	・運動公園等の照明がLED化されたことについて、既存の広報用WEBサイト等を活用するほか、庁内で連携した広報の取り組みを模索することで、地元住民等への周知に繋がるものと考えられる。 ・照明器具の選定にあたっては、執行にあたり最新の機器による比較検討を行い必要に応じ設計内容や積算内容の確認及び見直しを行う等により、より適切な器具の選定に繋げることが可能となる。
今後の取り組み方針		
・地球温暖化の防止を図るため、運動公園の運営に伴い、排出される二酸化炭素について率先して削減し、環境への負荷の少ない、持続的な発展が可能な町をつくり上げていくため、「第二次八重瀬町役場地球温暖化対策実行計画」に基づき、引続き照明設備をLED化していくとともに、運動公園の照明等がLED化されたことや、その他庁内における温暖化対策の取り組み等を本町ホームページ、広報誌へ掲載するなどの手法により、住民への普及啓発を図っていく。 ・予算積算の段階および事業実施の各段階において、最新の機器等の性能や費用の比較を行うことで、より適切な機器選定に繋げるとともに、効率的な事業執行に努めていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>18,272</td><td>18,272</td><td>14,618</td><td>3,654</td><td>0</td></tr></table> 八重瀬町 18,272千円 委託料 1,424千円 工事請負費 16,848千円 (株)設備研究所 961千円 (株)設備研究所 463千円 真喜志電設 16,848千円 具志頭社会体育館LED照明取替 工事設計委託業務 具志頭社会体育館LED照明取替 工事監理委託業務 具志頭社会体育館LED照明取替 工事					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	18,272	18,272	14,618	3,654	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
18,272	18,272	14,618	3,654	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法及び本町の財務規則等に従って選定されており妥当である。 ○予算においては国の積算基準、または複数業者見積を参考として積算しており、予算は適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、支出等に関する書類により精査確認し、適正であった。											

市町村名	八重瀬町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	9－①	八重瀬町特別支援員配置事業（幼）		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(4)－ア			
担当部課名	八重瀬町教育員会　学校教育課	事業実施 （予定）年度	平成29～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	国際社会、情報社会に対応した 教育の推進		
事業内容	幼稚園において、心身に障害を持つ幼児に対し適切な支援を行うため、特別支援員を配置し介助や安全確保などを行い支援体制の充実を図る。							
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）							
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（賃金）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	9,163					
		(b) 予算現額	9,163					
		(c) 増減額 (b-a)	0					
		(d) 前年度繰越額	－					
		A. 計 (b+d)	9,163					
	B. 執行済額		6,668					
	うち交付金充当額		5,335					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）(B/A)		72.8%					
予算の状況の説明		当初の計画では6名の配置であったが、思うように人員が確保できずに年間を通して、5名配置を行った。 不要額2,495千円については、期間内での退職や途中採用などにより、予定していた人数を配置できなかった期間が生じたことによる賃金の執行残である。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
			29年度	30年度	31年度	32年度		
	特別支援員配置数 各幼稚園6人	目 標	（　各幼稚園6人　）	（　　　　　）	（　　　　　）	（　　　　　）		
		実 績	各幼稚園5人					
達成 状況 説明	町内の幼稚園へ6名配置計画であったが、必要な支援員の募集を行ったが事業当初からの充足には至らなかった。しかしながら継続して採用活動を行った結果、途中退職による入れ替わりが生じたものの最終的には特別支援員を5名配置できた。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値 （　年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （30年度）	
	「支援を要する幼児児童生徒に対し、適切な支援が行われていると感じる」60%以上	目 標	（　　　　　）	（　60%以上　）			（　　　　　）	
		実 績		98.8% 達成				
	【H30年度成果目標】 対象となる児童生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応に満足したか	目 標	（　　　　　）	（　　　　　）	（　　　　　）	（　　　　　）	80%以上	
		実 績						
	進捗 状況 説明	配置できた人数は予定人数に達しなかったものの、幼稚園では、配置体制の工夫などで支援体制の構築を行うことはできた。 成果目標についても、適切な支援が行われていると目標の数値を上回ったことから、適切な支援をすることができたものと考えられる。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・支援を要する園児が年々増加傾向にある中で、支援の必要とする園児においても、発達の違いにより支援方法が異なることから、対象に応じて臨機応変な対応を行えるようにする必要がある。 ・成果指標について、より適切な指標がないか、継続的に検討していく必要がある。	・研修や情報交換会を実施することで、特別支援員の支援教育等の知識充実やスキルアップに資することができ、園児個々の発達状況に応じた対応が可能となると考えられる。 ・保護者に対するアンケートを実施することで、支援対象となる児童に対して十分な支援がなされているかの検証を試みるのが可能か、検討できるようになる。
今後の取り組み方針		
・特別支援員と学習支援員の合同研修会を年に数回行うほか、支援教育に特化した臨床心理士や大学教授等を講師に招くなどによる情報交換会および勉強会を随時実施していくことで、引き続き特別支援員の支援教育等の知識充実やスキルアップを図っていく。 ・対象となる児童生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応に満足したか等の観点を調査し、当該事業のあり方を検証する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
6,668	6,668	5,335	1,333	0

八重瀬町
6,668千円

賃金
5,905千円

特別支援員
5名分
5,905千円

共済費
763千円

特別支援員
5名分
763千円

共済費(社保、
雇用保険料、
労災保険料)

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、本事業で配置した支援員に係る支出となっており、妥当である。 ○必要人数に応じて積算されており、適正な規模であった。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、支出等に関する書類により精査確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	